

下関市豊北町の陸産・淡水産貝類

増野和幸・川野敬介

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

Terrestrial and Fresh Water Snails of Hohoku-town, Shimonoseki-City, Yamaguchi Prefecture, Japan

Kazuyuki MASHINO and Keisuke KAWANO

The Firefly Museum of Toyota Town, Nakamura 50-3, Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Pref., 750-0441 Japan

Abstract A total of 82 species belonging to *Gastrocopta armigerella* (Reinhardt), *Tropilla cryptodon* (Heude) and *Yamatochlamys vaga vaga* (Pilsbry et Hirase) were recorded from Hohoku, Shimonoseki, Yamaguchi Prefecture. Of these terrestrial snails, the three species, *Sitalina latissima* (Pilsbry), *Trochoeh okiensis* (Pilsbry et Hirase) and *Nakadaella ogaitoi* (Minato) of a malformation type of *N. micron* (Pilsbry), are new to Yamaguchi Prefecture. Although the present list was compiled mainly based on a bibliographical survey conducted in 2017. We also examined specimens deposited in The Firefly Museum of Toyota Town. For respective species, we described its habitats and distribution of collection records together with a brief comment.

キーワード: 陸産貝類, 淡水産貝類, 非海産貝類, 下関市, 豊北町

Key words: land-shell, water-shell, non-marine shell, Shimonoseki-city, Hohoku-town

はじめに

山口県下関市豊北町は、本州西端にあたる山口県の中で最も西の端に位置している。面積は約 165 km² で、その大部分を森林が占め、町内を北西に並行して延びる断層谷と日本海に注ぐ栗野川の流域に低地が広がっている。北西約 1.5 km の海上には東西約 4 km の角島が浮かび、対馬海流の影響を受けている。町の東には白滝山 (668 m)、南部には狗留孫山 (616 m) がそびえ、長門市油谷町・下関市豊田町・下関市豊浦町と接している (豊北町, 1994)。

現在の下関市は、2005年2月13日に旧下関市、菊川町、豊田町、豊浦町および豊北町の5市町が合併して県下第3位の面積に広がった。下関市の地域ごとの陸・淡水産貝類調査は、過去において旧下関市 (河本, 1964; 増野, 1990a)、豊北町 (藤原, 1970; 増野, 1992a; 山下・福田, 1996) および豊田町 (増野・川野, 2017) などに見られるが、いずれも島嶼部や海岸部に限られたものである。『豊北町史二』 (豊北町, 1994) の中に、「一 自然 2 貝類」のページがあり、町内の概要と貝類目録が掲載されている。この中では海産も含めて 153 科 530 種が報告されている。しかし、あくまで概要をしめしたもので、特に陸・淡水産貝類について詳細を知るには不十分である。そのほかの市内各地域の調査は行われておらず、下関市全域の非海産貝類相を知るための十分な情報があるとは言えない。

そこで、本報告では旧豊田町地域の陸産・淡水産貝類に続いて (増野・川野, 2017)、豊北町の調査を行った。本調査はおおむね 2017 年に実施したものであるが、過去に採集された標本個体も記録として考慮した。

この調査結果は、県内および市内各地域の非海産貝類相把握の基礎資料として役立つものとする。

調査地および方法

現地調査に加えて文献調査および豊田ホテルの里ミュージアム収蔵標本、筆者らの所有する記録を基に、豊北町の陸産・淡水産貝類の分布記録をまとめた。文献調査は一般に公表されている分布記録が掲載された論文や記載論文を対象とした。標本調査は現地調査により得られた標本、豊田ホテルの里ミュージアムの収蔵標本および筆者らが所有している過去の記録情報を対象に行った。過去における個人等の記録については、報告論文に記録された情報および直接、本人から提供のあったものも採用した。現地調査では目視確認した個体を直接採取するほか、落葉下の土壌を篩にかけ、持ち帰って顕微鏡下でピンセットを用いて微小種を採取した。なお、標本の同定は基本的に増野が行い、確認同定は矢野重文氏にお願いした。

標本は、豊田ホテルの里ミュージアム貝類資料として保管する。

豊北町の陸産・淡水産貝類の分布記録

本調査により得られた陸産・淡水産貝類を以下に一覧にした。種毎に【記録】及び【備考】を加えた。【記録】は本調査で確認された生息地名、日付（採集日 yyyy-mm-dd）、個体数、採集者の順に示した。採集者については氏名を記したが、特別に明記のないものは増野が記録したものである。生息地名は“山口県下関市豊北町”を省略し、それ以下の地名および場所を記載した。個体数は、標本として収蔵している個体数で、幼体・成体の区別はしていない。また、採集時の生死についての記録は取っていない。【備考】には形態や生態、および注目すべき特徴などについて解説した。また、各種学名の後に陸産または淡水産を表示してわかりやすくした。

学名および配列は基本的には湊 宏・増田 修 (1998)『日本野生生物目録 (44) , 軟体動物』を参考にしたが、陸産については、湊 宏 (1988)『日本陸産貝類総目録』、淡水産貝類については、波部忠重 (1990)『日本産非海産水棲貝類目録』も参考にした。

調査結果

本調査で、生貝または死殻により陸産 22 科 70 種、淡水産 8 科 12 種を確認した。そのうち 19 種は環境省のレッドリスト (環境省, 2017; 以下環境省 RDB)、7 種はレッドデータブックやまぐち (山口県環境生活部自然保護課, 2003; 以下山口県 RDB) の掲載種であった。陸産・淡水産合わせて 82 種を確認した。これは過去に報告のある県内他地域、例えば旧美祿郡 (秋芳町・美東町) の 84 種 (増野, 1989)、旧川上村の 59 種 (河上ら, 1990)、旧徳地町の 57 種 (福田, 2002)、旧豊田町の 77 種 (増野・川野, 2017) と比較しても、決して少ない種数ではない。美祿や川上地域が、一般に陸産貝が多産するとされる石灰岩地帯 (黒田・波部, 1949; 湊, 1980) であることを考えても、石灰岩地を有しない陸・島嶼に広がる豊北町の今回の調査とその記録は、陸・淡水産貝類相を十分に反映したものと考えられることができる。

なお、今回の調査で実標本を確認することができず、記録のみに拠る報告が、モノアラガイ、キヌツヤベッコウ、コハクガイ、シメクチマイマイの 4 種であった。

以下に本調査での全 82 種の確認地および生息状況などについて記す。

腹足綱 Class GASTROPODA

アマオブネガイ目 Order CYCLONERITIMORPHA

アマオブネガイ科 Family NERITIDAE

1. イシマキガイ *Chithon retropictum* (Martens, 1879) (淡水産)

【記 録】江尻下土井ヶ浜用水路, 2017-XI-17, 1ex.; 江尻下土井ヶ浜用水路河口, 2017-XI-17, 2exs..

【備 考】殻径 10 ~ 20 mm の半球状で、殻頂部が侵食により欠損している個体が多い。殻表面は緑褐色の殻皮で覆われ、細かい三角形の斑紋模様がある。石灰質の蓋をもつ。塩分を含む汽水域から純淡水域の岩礫上に生息し、川の堰などでは高い密度で観察される。礫表面に灰白色のごま粒状の卵嚢を生み付け、孵化した幼生は一旦河口を下り、海水に接した後河川を遡り生活する。萩市を流れる阿武川では河口から約 7 km 上流で成貝を観察したことがある。最近では飼育用水槽の掃除屋として、ペットショップなどで販売されている。豊北町では各河川の河口近くで観察できる。

新生腹足目 (中腹足目) Order CAENOGASTROPODA

ヤマタニシ科 Family CYCLOPHORIDAE

2. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1865 (陸産)

【記 録】角島元山, 1991-XII-22, 1ex.; 1994-IV-24, 中村康博; 白滝山, 1999-V-9, 1ex., 伊藤賢司; 2015-IX-17, 2exs.; 江尻上神田岬, 2017-XI-17, 1ex.; 矢玉江向矢玉八幡宮, 2017-VIII-26, 2exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.: 豊北峡, 2017-IX-13, 2exs..

【備 考】各地の落葉下に普通に生息し、里山から山地まで生息域は広い。殻径 20 mm, 殻高 18 mm ほどの茶褐色の円錐形の殻をもった巻き貝で、角質の薄い蓋をもつ。

3. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus campanulatus* Martens, 1865 (陸産)

【記 録】白滝山, 1999-V-9, 伊藤賢司; 寺畑山西麓太郎原峠, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 3exs..

【備 考】各地の落葉下に生息し、里山から山地まで生息域は広い。殻径 14 mm, 殻高 10 mm ほどの低い円錐形の殻で、厚い石灰質の蓋をもつ。

4. ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900) (図版 I- 1a-c) (陸産)

【記 録】江尻上神田岬, 2016-XI-13, 湊 宏・矢野重文; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 19exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 20exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.; 大川客神社, 2017-IX-26, 5exs.; 杓子山, 2017-IX-13, 20exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 4exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 34exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 36ex.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 15exs..

【備 考】山地の落葉下に生息する。殻径 2 mm, 殻高 1.2 mm ほどの殻で蓋もつ。ヤマタニシを著しく小さくしたような形をしている。豊北町では各地に生息し、個体数も多い。

〔ハズレミジンヤマタニシ型〕 *Nakadaella ogaitoi* Minato, 1988 (図版 I- 2a-c) (陸産)

【記 録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs..

【備 考】ミジンヤマタニシの奇形とも見られる微小貝で、殻径 2 mm, 殻高 1.2 mm ほどでと極めて小さい。ミジンヤマタニシとの大きな違いは、螺層の終層が次体層から遊離して、殻口に向けて突き出して多少下降する点である。また、臍孔は広くて深く、ほぼ殻径の 1/3 ほどに開き、殻底からすべての螺層が見える。今回記録した場所では、同所的に生息するミジンヤマタニシ 19 個体の中に 2 個体混入していた。本型は 30 年ほど前に、兵庫県淡路島で発見された標本を基に、湊 宏氏によって新種として記載された (湊, 1988)。その後、静岡県や三重県、熊本県、宮崎県などいくつかの県で記録されている (東, 2001; 潮崎, 2013; 早瀬,

2014; 西・西, 2014). 本種に関しては「中間形もありその有効性は甚だ疑わしい」(狩野・後藤, 1996) とする意見もあり, 単なる形態型と考える意見が多い. ミジンヤマタニシは生息密度が高く, 多数の個体が生息し, 本型のように螺管が大きくはずれるだけでなく, 逆旋や異常巻きなどの報告がある(早瀬, 2008; 西・西, 2014). 山口県内でもハズレミジン型ではなく, 殻頂部が異常な巻き方をした個体の報告が, 萩市笠山からある(木村, 2014). 県内でのハズレミジンヤマタニシ型の記録はこれが初めてある.

5. ヤマグルマガイ *Spirostoma japonicum japonicum* (A. Adams, 1867) (陸産)

【記 録】白滝山, 1999, 伊藤賢司; 2015-IX-17, 1ex.

【備 考】山地の落葉下に生息する, 殻径 15 mm, 殻高 8 mm ほどの低い円盤状の殻をもつ. 蓋は角質のとんがり帽子状で珍奇である. 県内ではヤマタニシ, アツブタガイなどとともに生息するが, 豊北町では南東部の山地・白滝山でのみ記録した.

ムシオイガイ科 Family ALYCAEIDAE

6. ピルスブリムシオイガイ *Dicharax pilsbryi* (Kobelt, 1902) (図版 I-3a-c) (陸産)

【記 録】宇賀上峠, 2017-IX-2, 2exs.

【備 考】山地の落葉下に生息する殻径 3.5 mm, 殻高 2 mm ほどの低い円錐形をし, 殻に角質の蓋をもつ. 殻背面にうじ虫状の呼吸管をもつため, “虫負い” の名が付く. 県内に広く分布するが, 個体数は極めて少ない. 町内では南部の宇賀地域で 2 個体記録したのみである. ムシオイガイの仲間は, 山口県固有種のタダムシオイガイ(見島) やヤサガタイトウムシオイガイ(萩市) を含めて数種が記録されている. 豊北町内では本種を一回り大きくした個体が, 角島をはじめ沿岸域の各地で見つかっている. 現在専門家により研究中であり, オオピルスブリムシオイガイと仮称されている(矢野, 2008, 2015b).

7. オオピルスブリムシオイガイ(矢野仮称: 未記載種) *Dicharax* sp. (図版 I-4a-c, VII-1) (陸産)

【記 録】角島尾山, 1988-IV-6, 9exs.; 角島, 1990, 河上 勲; 1991-V-26, 8exs.; 1991-XII-22, 5exs.; 角島元山, 1988-IV-6, 1ex.; 附野, 2016-XI-13, 9exs.; 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏・杉村智幸; 附野海水浴場, 2017-IX-26, 15exs.; 角島元山港付近, 2017-X-5, 3exs.; 角島元山神社裏林, 2017-XI-21, 4exs.; 角島元山西迫, 2017-X-5, 65exs.; 江尻上神田岬, 2017-V-4, 4ex.; 2017-XI-17, 2exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 14exs.; 杵子山, 2017-IX-13, 27exs.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 1ex.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 5exs.

【備 考】角島や附野の海岸地帯と, 大川, 堀越などの内陸部の林内落葉下に生息する殻径 4 mm, 殻高 3 mm ほどの微小な巻き貝である. 前種ピルスブリムシオイガイに似るが, 一回り殻が大きい. 殻口は肥厚して大きく反り返る. 螺層は 3 3/4 層, 螺脈は見られない. 臍孔は殻径の約 1/3 で, 広く深い. うじ虫状呼吸管は小さく, 高く肥厚しない. 殻色は鮮やかな黄褐色. 前種や近縁種との詳細な比較研究が, 専門家の手により行われている. 豊北町以外では, 蓋井島でも確認されている(増野, 1990).

ゴマガイ科 Family DIPLOMMATINIDAE

8. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry et Hirase, 1904 (図版 I-5) (陸産)

【記 録】角島元山, 1991-V-26, 4exs.; 1991-XII-22; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏; 角島元山神社裏林, 2017-XI-21, 3exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 2exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 5exs.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 15exs.; 杵子山, 2017-IX-13, 63exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 2exs.

【備 考】山地の落葉下に生息する殻径 1.5 mm, 殻高 3 mm ほどの, 紡錘形をした右巻きの微小貝. 殻表面には細かい肋の彫刻が並ぶ. 殻色は淡い橙色で, 胡麻のように小さいことから名付けられた. 県内各地に

見られ、豊北町内での記録地も個多数も多い。

吸腔目 Order SOREOCONCHA

クビキレガイ科 Family Truncatellidae

9. ヤマトクビキレガイ *Truncatella pfeifferi* Martens, 1860 (図版 I-6) (陸産)

【記録】角島大浜海岸, 2016-XII-11, 1ex., 松田真紀子; 角島元山港付近, 2017-X-5, 42exs..

【備考】殻は細長く、殻高6mm くらいの円筒形。殻色は鮮やかな赤褐色。幼貝では高円錐形であるが、成貝では殻頂部が折れて欠損しているために「クビキレ」と呼ばれる。殻表には顕著な縦肋がある。キュウシュウクビキレガイの異名がある。海浜の飛沫帯に分布し、湿った転石の間隙やゴミの堆積の間に生息する。県内各地に生息し、豊北町角島で記録した。

カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

10. ヘソカドガイ *Paludinella japonica* (Pilsbry, 1901) (図版 I-9) (陸産)

【記録】角島夢ヶ崎, 1991-XII-22, 2015-X-3, 3exs.; 1997-VIII-20, 福田 宏; 神田上土井ヶ浜, 2016-XI-11, 2exs. 松田真紀子。

【備考】殻高6mm, 殻径4mm ほどの円錐形をした巻き貝で、殻色は赤褐色である。臍孔のはっきりし、臍孔の周囲に角ができるのでこの名称がある。海浜の自然林や藪の縁から高潮帯にかけての落葉や堆積物の下に生息する。山口県内の各地に生息する。豊北町では角島の大浜海岸や土井ヶ浜海岸で記録した。

11. オオウスイロヘソカドガイ *Paludinella stricta tanegashimae* (Pilsbry, 1924) (図版 I-10) (陸産)

【記録】角島夢ヶ崎, 1991-XII-22, 9exs.; 角島元山港付近, 2014-XI-22, 矢野重文; 2017-X-5, 12exs.; 角島大浜海岸, 2016-XII-1, 1ex., 松田真紀子; 神田上土井ヶ浜, 2016-XI-11, 2exs., 松田真紀子。

【備考】殻高8mm, 殻径5mm ほどの円錐形。ヘソカドガイに似るが一回り大きい。殻色は淡い橙黄色。螺塔が高く、体層の周縁が弱く角張る。臍孔は狭いがはっきりと開き、臍孔の周囲の角は弱い。岩礁地の高潮帯の隙間や堆積物の下に生息する。山口県内の各地に生息する。豊北町では角島の大浜海岸や土井ヶ浜で記録した。

カワニナ科 Family PLEUROCERIDAE

12. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859) (淡水産)

【記録】角島元山, 1991-XII-22, 6exs.; 白滝山, 1999-V-9, 4exs.; 阿川大曲, 2017-XI-21, 4exs.; 阿川土井, 2017-XI-21, 1ex.; 阿川土井沖田川用水路, 2017-XI-21, 1ex.; 滝部, 2017-XI-17, 1ex.; 田耕中山神社, 2017-XI-17, 1ex.; 田耕市庭, 2017-XI-17, 1ex.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 1ex.; 江尻下土井用水路, 2017-XI-17, 5exs.; 田耕原城見坂溜池, 2017-XI-17, 3exs..

【備考】各地の河川や用水路で普通。「清流にすみ、ゲンジボタルの餌となる貝」としてきれいな水にすむ生き物として扱われるが、むしろ人里や市街地に近い小河川や水路など、有機質が多分に存在する水質を好むようである。ゲンジボタルが多く飛び交う豊田町内では、町内各地の河川でみることができる。流水中にすむ個体は殻頂部が破損していることが多いが、湖や池のような滞水域には完全な殻頂部をもつ個体がみられる。雌雄異体で、雌が幼貝を直接産出する卵胎生。豊北町の各地で記録した。

モノアラガイ目 (基眼目) Order BASOMMATOPHORA

サカマキガイ科 Family PHYSIDAE

13. サカマキガイ *Physa acuta* Draparnand, 1805 (淡水産)

【記 録】角島元山, 1991-XII-22, 1ex.; 阿川大曲, 2017-XI-21, 1ex.; 阿川用水路, 2017-XI-21, 1ex.

【備 考】各地の水田や池沼, 用水路などにみられる。殻は殻高 10 mm ほどの紡錘形で, 左巻きである。右巻きのモノアラガイやヒメモノアラガイの触角が三角形をしているのに対し, 本種は細長い鞭状をしており異なる。ヨーロッパ原産とされ, 県内各地でみられる。在来のモノアラガイやヒメモノアラガイに比べて汚染に強く, 多少環境の悪い排水路などでも生息がみられる。豊北町内の水田でも普通に生息すると思われるが, 今回の調査では阿川地域で記録しただけある。

モノアラガイ科 Family LYMNAEIDAE

14. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould, 1859) (淡水産)

【記 録】阿川, 2017-XI-21, 5exs.; 阿川土井沖田川用水路, 1ex.; 田耕原城見坂溜池, 2017-XI-17, 4exs.

【備 考】池沼や湖, 流れの緩やかな水路など止水域を好んで生息する。各地に分布するが, 類似した外来種も帰化している。同所的にみられるモノアラガイと比べて, 殻口が狭く, 螺塔が全体に高くなる。殻表面は光沢がある。一对の触角は三角形で, 触角の基部の内側に眼点がある。豊北町では阿川の水田地帯と田耕の用水溜池で記録した。

15. コシダカヒメモノアラガイ *Fossaria truncatula* (Müller, 1774) (図版 I-7) (淡水産)

【記 録】角島元山, 1991-XII-22.

【備 考】殻高 5 mm, 殻径 2.5 mm 前後で, 殻口の高さが殻高の半分ほどで, ヒメモノアラガイと比べると螺塔が高く伸びる。殻表面には微細な成長脈があり, 殻質は薄く黄褐色である。狭い臍孔がある。水田や湿地などの水際に生息する。日本各地に生息するが, 外来種とも考えられている。山口県内では山口市や萩市で記録されている。豊北町内での記録は, 30 年近く前に角島で採集されたものである (増野, 1992a)。環境省 RDB では情報不足。

16. モノアラガイ *Lymnaea auricularia japonica* Jay, 1857 (淡水産)

【記 録】角島元山, 1993-IV-29, 伊藤賢司。

【備 考】各地の溜池や用水路に生息する。螺塔の高さに比べて殻口の広がり大きき, 右巻きの巻き貝である。同じ環境に生息する外来種で左巻きのサカマキガイが, 環境の悪化に強いのに対して, 本種は環境変化の影響を受けやすい。近年, 本種に近縁の外来種が入ってきており, 本種のように殻口が大きく広がらない個体も見られる。豊北町内では水田等に普通に生息すると考えられるが, 今回は調査時期が悪く採集できなかった。記録は, 25 年近く前に伊藤賢司氏により角島で採集されたものである (増野宛私信, 2002)。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

ヒラマキガイ科 Family PLANORBIDAE

17. ヒラマキガイモドキ *Polyphysa hemisphaerula* (Benson, 1842) (図版 I-8a-c) (淡水産)

【記 録】荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 1ex.

【備 考】水田の用水路や池沼の水草に生息する。殻径 5 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると台形をしており, 底側には殻を透かして数本の帯状の内彫刻が確認できる。豊北町内でも普通に生息していると思われるが, 今回は調査時期が悪く荒田地域で 1 個体を確認しただけだった。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

カワコザラガイ科 Family FERRISSIIDAE

18. カワコザラガイ *Laevapex nipponica* (Kuroda in Is. Taki, 1860) (図版 I-11) (淡水産)

【記 録】 田耕原城見坂溜池, 2017-XI-17, 4exs..

【備 考】 長径 4 mm, 短径 2 mm ほどの長楕円形の笠形の貝。殻質は薄質で脆く、半透明をしている。殻表には同心円状に成長脈がある。全国に分布し、溜池や用水路、湖沼で見られる。山口県内では各地に生息するが、近年、見かける機会が少なくなった。豊北町でも精力的に探せば見つかると思われる。今回の調査では、田耕の溜池で記録した。

後鰓亜綱 Subclass OPISTHOBRANCHIOA

マイマイ目 Order STYLOMMATOPHORA (柄眼目)

オカモノアラガイ科 Family SUCCINEIDAE

19. ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901) (図版 II-16, VII-2) (陸産)

【記 録】 田耕市庭, 2017-XI-17, 2exs..

【備 考】 水田の水路や河川の水草の葉上などにみられるが、極めて生息数は少ない。殻形はモノアラガイに似るが、2 対の触角があり識別は容易である。県内の記録は少ない。豊北町内では粟野川支流の滑川沿いの用水路壁で、2 個体の生体を記録した。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

20. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrara* (Gould, 1859) (図版 II-15) (陸産)

【記 録】 阿川大曲, 2017-XI-21, 1ex..

【備 考】 庭園や水路の側溝などに生息する。殻は薄質半透明、黄褐色で光沢をもつ。殻口が大きく、その割に螺塔が高くない右巻きの貝。長短 2 対の触角があり、長い方の先に目がある。山口県内の記録は少なく、柳井市、光市、山口市などの記録がある。今回、町内阿川で 1 個体記録した。

スナガイ科 Family GASTROCOPTIDAE

21. スナガイ *Gastrocopta armigerella* (Reinhardt, 1877) (図版 II-13) (陸産)

【記 録】 角島夢ヶ崎, 1991-XII-22, 3exs.; 1997-VIII-20, 福田 宏; 角島尾山中学校前, 1998-II-11, 中村康博; 神田上岡林土井ヶ浜, 1999-X, 福富孝義。

【備 考】 殻高 2 mm, 殻径 1 mm, 約 5 層の小形海浜性の陸貝である。殻色は白色で円筒形、殻表には鈍い光沢がある。殻は厚く反転し、殻口の外唇内側に 3 個、内唇に 3 個、軸唇に 2 個の歯状突起をもつ。海浜植物、ハマオモトなどの根元の乾いた砂中に生息する。山口県では長門市の大浜海岸（旧油谷町）や二位ノ浜海岸（旧日置町）で見られる。豊北町では角島、土井ヶ浜で記録がある。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

サナギガイ科 Family PUPILLODAE

22. サナギガイ *Pupilla cryptodon* (Heude, 1882) (図版 I-12) (陸産)

【記 録】 角島夢ヶ崎, 1986-VIII-26, 15exs., 福田 宏; 1991-XII-22; 1997-X-19, 5exs.; 1996-VIII-20, 30exs., 福田 宏; 1997-X-19, 中村康博; 2015-X-3, 2exs.; 荒田海浜アシ原, 2017-XI-17, 2exs..

【備 考】 殻高 3 mm, 殻径 2 mm の小形で薄質だが堅固な殻をもつ。螺塔の高さには変異があり、著しく引き伸ばされた俵形を示す個体から球形に近い個体などが観察される。殻口は円く、体層から離れて反転する。成貝では殻口の内唇に 2 個、軸唇に 1 個、外唇内側に 2 個の歯状突起をもつ。殻色は淡褐色であるが、死殻は白色である。海浜性植物のハマオモトなどの根元に生息する。山口県内では、長門市（旧日置町・旧油谷町）の二位ノ浜海岸、大浜海岸に生息する。豊北町では角島夢ヶ崎と荒田地域のヨシ原のごく限られ

た場所で記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 I 類。山口県 RDB では絶滅危惧 IB 類。

マキゾメガイ科 Family ACANTHINULIDAE

23. マルナタネガイ *Parazoogenetes orcula* (Benson, 1850) (図版 II-17) (陸産)

【記録】肥中七社大明神, 2017-X-5, 4exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 2exs.; 大川客神社, 2017-VIII-26, 5exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 5exs..

【備考】黒褐色をした球状円錐形で、殻高 2 mm ほどの微小な貝である。柑橘類・広葉樹・ムクノキ・アオキなどの樹皮や葉裏に着生することが多い。ヒラドマルナタネと酷似するが、本種は臍孔が閉じるのに対し、ヒラドマルナタネは臍孔が広く深い点で識別できる。

24. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* Reinhardt, 1886 (図版 II-18a-c) (陸産)

【記録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 1ex.; 大川客神社, 2017-IX-26, 3exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 1ex..

【備考】マルナタネガイと同じ環境に生息するが、樹上性でムクノキなどに着生する。球形をした巻き貝であり、臍孔が開く点で前種と異なる。生息数は少ない。

ミジンマイマイ科 Family VALLONIIDAE

25. ミジンマイマイ *Vallonia pulchellula* (Heude, 1882) (図版 II-14a-c) (陸産)

【記録】角島, 1990, 河上 勲; 1998-II-11, 藤原廣治; 角島夢ヶ崎, 1991-XII-22, 1ex.; 1997-VIII-20, 福田宏; 1998-II-11, 中村康博; 神田上岡林土井ヶ浜, 1999-X, 福留孝義; 附野赤田海岸, 2013-XI-29, 川野敬介; 荒田海浜アシ原, 2017-XI-17, 32exs..

【備考】殻径 2 mm, 殻高 1 mm で低く平らに巻く微小な巻き貝。殻は白色半透明で、表面に細かい縦肋が密にある。殻口は厚くなり反転する。広い臍孔をもつ。海岸性の陸貝で、ハマオモトなどの海浜植物の根元などに生息する。山口県内では日本海側の自然度の高い海岸に見られる。豊北町内では角島大浜海岸や附野赤田海岸、土井ヶ浜海岸、荒田海岸などに生息する。

キセルガイモドキ科 Family ENIDAE

26. キセルガイモドキ *Mirus reinjanus* (Kobelt, 1875) (図版 II-19) (陸産)

【記録】白滝山, 1999-V-9, 8exs..

【備考】キセルガイの仲間が左巻きであるのに対し、本種は紡錘形をした右巻きの殻をもつ。県内には殻のふくらみがやや細いキセルガイモドキが生息するが、豊北町で生息する個体はふくらみが大きい。しかし、フトキセルガイモドキとの大きな形態的差異はない。現時点では、殻および解剖学的にみた形質的な違いが認められないので、相対的な殻の大小で分類を行っている(湊 宏氏からの私信, 2016)。豊北町内では隣接する豊田町との境にある白滝山でのみ記録している。豊田町では狗留孫山、華山で記録している(増野・川野, 2017)。山口県 RDB では準絶滅危惧種。

キセルガイ科 Family CLAUSILIIDAE

27. スグヒダギセル *Paganizaphyx stimpsoni subgibbera* (Boettger, 1877) (陸産)

【記録】角島元山, 1988-IV-6, 9exs.; 1991-XII-22; 1993-IV-29, 伊藤賢司; 角島尾山, 1988-IV-6, 3exs.; 1991-IV-29, 4exs.; 角島元山港付近, 2017-X-5, 1ex.; 白滝山, 1999-V-9, 1ex.; 二見, 2017-VIII-27, 5exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 6exs.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 1ex.; 田耕原城見坂付近, 2017-V-4, 2exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 2exs.;

江尻下土井ヶ浜西端海浜林, 2017-XI-17, 2exs.; 江尻上神田岬, 2017-V-4, 5exs.; 滝部滝部八幡宮, 2exs.

【備考】殻高 15 mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類。里山の倒木や寺社の古木、山林の落葉下などに生息する。人家近くの藪の中に集団でみられることがある。かつて山口県西部に分布する個体をナガトギセル（タイプローカリティ：長門・出合）、県東部に分布するものをハリマギセル（タイプローカリティ：香島・播磨）としていたが、現在ではスグヒダギセルのシノニム（同種異名）としてまとめられている（湊, 1994）。豊北町内では各地でみることができる。

28. カワモトギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) kawamotoi* Kuroda et Taki, 1944 (陸産)

【記録】田耕沓掛, 1997-XII-23, 中村康博; 白滝山, 1999-V-9, 福留孝義; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 1ex.

【備考】殻高 20 mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類。山口県の貝類研究の権威者でもある河本卓介氏が、岩国市城山で発見し記載された。タイプローカリティの岩国市城山産の個体は、殻口の唇縁に細かなきざみ状の彫刻がみられる（湊, 1999）。県西部の個体は、豊北町産も含めて唇縁の特徴は現れない。山地の倒木の裏や落葉中に生息する。豊北町内での記録は少ない。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類、山口県 RDB では準絶滅危惧種。

29. モリヤギセル *Vastina (Vastina) vasta moriyai* (Kuroda et Taki, 1944) (図版 VI-1) (陸産)

【記録】白滝山, 1999-V-9, 2exs.; 田耕原城見坂付近, 2017-IX-2, 1ex.

【備考】殻高 30 mm 前後のふっくらした紡錘形のキセルガイ類。広島県北部の庄原市口和町竹地谷をタイプローカリティとし、中国地方全域および四国西部に分布する。基亜種のおキギセルが九州に分布し、山口県がその境界となっている。山地性のキセルガイ類で、町内では隣接する豊田町との境の田耕で 1 個体記録した。隣接する豊田町では比較的多産する（増野・川野, 2017）のに比べると、豊北町では希産である。環境省 RDB では準絶滅危惧種、山口県 RDB とともに準絶滅危惧種。

30. ナミギセル *Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica* (Crosse, 1871) (陸産)

【記録】二見, 2017-VIII-27, 9exs.

【備考】各地の里山や市街地の草地、落葉下に生息する殻高 25 mm ほどの中形のキセルガイ類。人家周辺にも生息し、比較的なじみのあるキセルガイ類であるが、今回の調査では二見地域の沿道集落で記録したのみである。市街地や宅地開発された場所の調査が、不十分だった可能性が高い。

31. シイボルトコギセル *Phaedusa sieboldii* (L. Pfeiffer, 1848) (図版 II-20, VII-3) (陸産)

【記録】角島, 1954-VIII, 萩博物館所蔵標本; 1990, 河上 勲; 角島尾山, 1988-IV-6, 3exs.; 角島元山, 1991-IV-29, 2exs.; 1991-XII-22; 1996-IV-10, 伊藤賢司; 角島元山神社裏林, 2017-XI-21, 5exs.; 附野薬師寺, 1995-IV-10, 中村康博; 神田住吉神社, 2exs., 川野敬介。

【備考】海岸部や島嶼の林、寺社の社叢や境内に残る古木大木の樹幹に生息する樹上性のキセルガイ類。殻高 20 mm 弱で紫褐色の殻をもち、乾燥に強い。神社の御神木に生息することから、長命・安全航海・弾丸除け等の守護とされてきた（河上ら, 1990）。下関市一の宮の住吉神社では、境内の古木にすむ本種のレプリカをお守りとしていた。そのほかにも、安産や早婚、夜泣き治療などの呪いに使用されたという、民俗学的にも興味あるキセルガイ（煙管貝）である（河上ら, 1990）。樹上性であることから、生息環境の維持が懸念される。山口県西部の海岸沿いの地域や島嶼部に比較的高密度で生息する。豊北町内では、なじみのあるキセルガイの一種である。

オカクチキレガイ科 (オカチョウジガイ科) Family SUBULINIDAE

32. オカチョウジガイ *Allopeas clavulinum* Potilz et Michaud, 1838 (図版 II-23, 24) (陸産)

【記 録】角島元山, 1991-XII-22, 11exs.; 神田上岡林土井ヶ浜, 1999-X-30, 福富孝義; 角島夢ヶ崎, 2015-X-3, 1ex.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 6exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 1ex.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 4exs.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 1ex.; 神田特牛港対岸藪林床, 2017-IX-26, 1ex.; 荒田海浜アシ原, 2017-XI-17, 2exs..

【備 考】人家周辺や里山の草地などに普通にみられる。殻高 10 mm ほどの細長い紡錘形の貝。殻は淡褐色で光沢がある。生貝の軟体部は濃い黄色を呈する。類似種にホソオカチョウジガイ, サツマオカチョウジガイ, ユウドオカチョウジガイ, マルオカチョウジガイ等があるが、殻頂部から体層にかけての膨らみや殻全体のプロポーシオンに差異がある。

33. ユウドオカチョウジガイ *Allopeas* sp. cf. *heudei* (Pilsbry, 1906) (図版 II-26) (陸産)

【記 録】江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 2017-V-4, 1ex.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 2exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 5exs.; 粟野峠, 2017-IX-13, 1ex.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 4exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 2exs..

【備 考】オカチョウジガイに類似するが、オカチョウジガイが殻頂部から体層にかけてふっくらしているのに対して、本種は殻頂からほっそりと体層にいたる。また、ホソオカチョウジガイほど細くはない。生息環境は、里山というよりは山地性である。県内での記録は少ない。豊北町内では、7ヶ所の落葉下で記録したがいずれの場所も山地である。

34. トクサオカチョウジガイ *Paropeas achatinaceum* (Pfeiffer, 1846) (図版 II-21) (陸産)

【記 録】角島, 1990, 河上 勲; 角島尾山, 1991-XII-22, 1ex.; 神田上岡林土井ヶ浜, 1999-X-30, 福留孝義; 角島元山港付近, 2017-X-5, 3exs.; 二見, 2017-VIII-27, 16exs.; 江尻上神田岬, 2017-XI-17, 2exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.; 荒田海浜アシ原, 2017-V-4, 23exs.; 2017-XI-17, 34exs..

【備 考】生息環境は、集落周囲の草むらや里山など人の手が入った林内の落葉中である。外来のオカチョウジガイ類である。殻表に粗い縦肋があり、光沢がない。殻はオカチョウジガイが殻頂部からふっくら膨らむのに比べて、殻頂部から比較的ほっそりとスマートに殻口に至る。山口県内各地に見られ、豊北町内でも広い地域でみられた。

35. ホソオカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (Schmacker et Boettger, 1891) (図版 II-22) (陸産)

【記 録】角島尾山, 1991-XII-22, 2exs.; 角島夢ヶ崎, 2015-X-3, 1ex.; 二見, 2017-VIII-27, 3exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-21, 1ex.; 江尻上神田岬, 2017-V-4, 1ex..

【備 考】オカチョウジガイの仲間の中では最も小さく、殻全体が細く尖る。殻色は淡い褐色になる。里山の林床落葉下に生息する。山口県内の各地にみられるが、個体数は少ない。今回の調査でも4ヶ所で数個体採集したにすぎない。

36. サツマオカチョウジガイ *Allopeas satsumense* (Pilsbry, 1906) (図版 II-25) (陸産)

【記 録】角島尾山港北側山麓, 2014-XI-22, 矢野重文; 特牛専教寺の森, 2016-XI-13, 矢野重文; 角島元山西迫, 2017-X-5, 53exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 2exs..

【備 考】オカチョウジガイの仲間では、比較的大きい。殻全体はオカチョウジガイに似るが、殻頂から3層目くらいまではほっそりとし、4層目付近から急に膨らんで殻口に至る。成長すると体層に比べて螺塔が

長くなる。里山の林床の落葉下に生息する。山口県内では県東部の瀬戸内の島嶼部や沿岸で記録があるが、比較的少ない。豊北町でも角島や神田、阿川などの海岸に近い社叢で見つかっている。個体数は少ない。

37. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758) (図版 II-27, VII-4) (陸産)

【記録】塩尻下土井ヶ浜人類学ミュージアム敷地内, 2016-III-9, 4exs.; 荒田, 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏・杉村智幸; 荒田海浜アシ原, 2017-V-4, 1ex.; 江尻上神田岬, 2017-XI-17, 2exs..

【備考】本種は地中海地域原産の陸貝で、日本への移入は北九州市での確認が初めてである(湊・魚住, 1991)。その後、山口県宇部市で定着・繁殖が確認(増野, 1992c)され、ここ 20 数年のうちにほぼ山口県全域に拡大している(増野, 2011)。地中にもぐり越冬し、産卵数も多く雑食性である。繁殖が自家受精と他家受精の両方を行うこと(松隈ら, 2006)や、拡散が植木や花卉野菜などの人為的移動によることなどにより、駆除は容易ではない。下関市内での生息は、市街地や海岸部などで早期に確認されていた。そのうち豊北町内での移入は比較的早く、「2002 年頃から和久地域を分布の中心にして拡大したと考えられ、南方へ岡林地域、土井ヶ浜地域へと広がり、北方へは和久から荒田地域まで、国道 191 号線に沿った地域で拡大している」(増野, 2008c)。

ナタネガイ科 Family PUNCTIDAE

38. ヒメナタネガイ *Punctum amblygonum pretiosum* Gude, 1900 (図版 II-29a-c) (陸産)

【記録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 1ex.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 1ex..

【備考】ナタネガイの仲間は、いずれも殻径が 2.5 mm 以下と極めて小さく、殻色も褐色で発見しにくい。採集はもっぱら、林床の土壌を持ち帰り篩に通した後、実体顕微鏡の下で行った。ヒメナタネガイはナタネガイ類の中でも大形で殻径約 2 mm、殻表面に斜めの薄板状の成長肋が目立つ。周縁角が強く、臍孔は広い。豊北町内では 4 ケ所から記録したが、いずれも個体数は 1 個体と極めて少ない。

39. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904 (陸産)

【記録】西沢, 2017-VIII-26, 1ex.; 杓子山, 2017-IX-13, 1ex.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 3exs.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 1ex..

【備考】殻径約 1.5 mm。大きさ、形ともにハリマナタネガイによく類似する。殻表面には成長肋はなく、顕微鏡でみると微細で密な成長脈がある。臍孔は開くが殻径に比べて狭く、他のナタネガイ類に比べても臍孔は小さい。県内での過去の記録は少ない。

40. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900 (陸産)

【記録】大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 1ex.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 2exs.; 粟野峠, 2017-IX-13, 3exs.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 3exs.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 1ex..

【備考】殻径約 1.5 mm で、ナタネガイの仲間の中では小形である。殻表面には弱い薄板状成長肋があるが、ヒメナタネガイに比べて滑らかである。周縁は丸く、臍孔は広い。個体数は多い。

41. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry et Hirase, 1904 (図版 II-28a-c) (陸産)

【記録】角島元山港北側山麓, 2014-XI-22, 矢野重文; 粟野峠, 2017-IX-13, 1ex.

【備考】殻約 2.0 mm、殻高 2.5 mm とナタネガイの仲間ではやや大形である。淡褐色で、殻表には薄板状

成長肋がある。周縁に弱い角がある。臍孔は狭い(矢野, 2016)。山口県内の生息は少なく、豊北町では2ヶ所の記録があるだけである。

コハクガイ科 Family ZONITIDAE

42. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1816) (陸産)

【記録】角島元山, 1991-XII-22.

【備考】殻径 5 mm ほどで、螺塔の低い円盤状をしている。臍孔が大きく、周縁は丸くなる。殻は黄褐色で光沢がある。人家周辺や畑地など乾燥しやすい場所にも生息する。原産地が北米の移入種。県内では市街地で多くみられる。豊北町では角島の人家近くで観察した 25 年以上も前に記録があるだけである(増野, 1992a)。

イシノシタ科 Family HELICODISCIDAE

43. ノハラノイシノシタ *Helicodiscus (Hebetoidiscus) singleyanus inermis* Baker, 1929 (陸産)

【記録】角島尾山, 2014-XI-22, 1ex., 矢野重文.

【備考】殻高 1.0 mm, 殻径 2.2 mm の微小な亜円盤形, 薄質半透明, やや光沢のある褐色(狩野, 1996)。北アメリカ原産の国外外来種で、ヨーロッパ各国や日本への移入が報告されている。この貝は河川敷や庭、園芸地などの石の下に棲んでおり、しばしばヒメコハクガイとともに見いだされる。山口県内では山口市や山陽小野田市で確認されている(狩野, 1996)。豊北町では、矢野重文氏が角島尾山で1個体を記録した。

ナメクジ科 Family PHILOMYCIDAE

44. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901) (図版 VII-5) (陸産)

【記録】角島元山, 1991-XII-22, 1ex.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 1ex.; 特牛専教寺, 2016-XI-13, 矢野重文.

【備考】体長が 100 mm 以上にもなる大形のナメクジ類。灰褐色～茶褐色の軟体で、両側と中央に暗色の縦帯がある。各地に生息し、里山や山地内の倒木の裏や洞にひそんでいる。

コウラナメクジ科 Family LIMACIDAE

45. チャコウラナメクジ *Lehmannia valentiana* (Férussac, 1882) (図版 VII-6) (陸産)

【記録】角島元山, 1991-XII-22, 1ex.; 神田特牛, 1997-II-23, 8exs., 杉村智幸; 荒田, 1997-VIII-10, 2exs. 福田 宏; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 2exs..

【備考】軟体部は茶褐色で体長は 30 ~ 50 mm. 背面に 2 本の縦線があり、頭部に続いた前半部分に甲羅を埋包した肉塊がある。この肉塊を開くと、石灰質の薄い甲羅を摘出することができる。人家周辺の植え込みの中、植木鉢やプランターの裏など、時には家の中まで侵入して困ることもある。現在、駆除対策のナメクジという和本種をさす場合が多い。豊北町では市街地はじめ、広い地域でみかける。

ベッコウマイマイ科 Family HELICARIONIDAE

46. ヒラベッコウガイ *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900) (陸産)

【記録】角島元山港北側山麓, 2014-XI-22, 1ex., 矢野重文.

【備考】殻径 9 mm ほどの小形の貝である。ベッコウ類の中でも螺塔が低く、殻頂部がわずかに盛り上がる。体層が急に大きく張り出し、周縁は丸い。殻色は淡い黄褐色で光沢がある。臍孔は小さく開く。殻形が類似するオオヒラベッコウガイはさらに大形となり、殻径が 15mm ほどにもなる。今回の記録は、矢野重文氏によるものである。環境省 RDB では情報不足。

47. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877) (陸産)

【記 録】 特牛専教寺, 2016-XI-13, 矢野重文; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 10exs.; 西沢, 2017-VIII-26, 4exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 4exs.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 5exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 2exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 47exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 4exs.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 4exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 4exs.; 杓子山, 2017-IX-13, 2exs.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 7exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 6exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 4exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 11exs.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 8exs.; 神田特牛港対岸藪林床, 2017-IX-26, 2exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 1ex.

【備 考】各地の林内落葉下に生息する, 殻径7mmほどの低い円錐形の殻をもつ貝。殻表面は強い光沢がある。縫合に沿って白色の縁がある。殻底の中ほどは白くなる。臍孔は狭いが開く。山口県内各地に普通にみられ、豊北町でも各地に生息する。

シタラ科 Family EUCONULIDAE

48. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900) (陸産)

【記 録】 白滝山, 2015-IX-17, 1ex.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 1ex.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 5exs.

【備 考】林内の落葉下や草本群落中に生息する, 殻径5mmほどの低円錐形の貝。淡い黄褐色で光沢がある。周縁に強い角をもち、臍孔は閉じる。各地にみられ、豊北町では広い地域で記録した。

49. オキノクニキビ *Parakaliella okiensis* (Pilsbry et Hirase, 1908) (図版 III-30a-c) (陸産)

【記 録】 白滝山, 2015-IX-17, 2exs.

【備 考】殻径約4mm, 殻高3mmほどで、半透明の薄い黄褐色の殻をもつ微小な貝。島根県隠岐(島後)だけに生息する固有種とされ、近年、その生息数は激減している(島根県, 2014)。広葉樹林内の落葉中に生息するとされる。本種に近似した特徴をもつ個体が、岩国市・美祢市・萩市からも記録されているが、分類学的な再検討が必要である。豊北町からは白滝山から2個体を採集した。環境省 RDB では情報不足。

50. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877) (図版 III-31a, b, 32a-c) (陸産)

【記 録】 角島元山港付近, 2014-XI-22, 矢野重文; 2017-X-5, 1ex.; 角島尾山, 2014-XI-22, 2exs., 矢野重文; 白滝山, 2015-IX-17, 1ex.; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 角島元山西迫, 2017-X-5, 10exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 4exs.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 15exs.; 西沢, 2017-VIII-26, 7exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 20exs.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 6exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 9exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 9exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 4exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 16exs.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 11exs.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 5exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 17exs.; 杓子山, 2017-IX-13, 9exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 25exs.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 21exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 19exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 6exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 9exs.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 6exs..

【備 考】各地の林内落葉下に生息する, 殻径2mm弱の低平な円錐形の殻をもつ。殻は半透明で淡黄褐色を呈し、光沢がみられる。臍孔は閉じる。ヤクシマヒメベッコウに類似するが、本種と比較すると、おおよそ殻径2mm未満で、殻がやや高く、螺層の間隔が狭く、螺層数の多いものが本種である。殻径が同じくらいの大きさでも殻高が低く、螺層の間隔が広がっている個体をヤクシマヒメベッコウとし、識別の目安としている。豊北町の各地の落葉中にみられる。

51. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902) (陸産)

【記 録】角島元山西迫, 2017-X-5, 3exs.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 5exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 6exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 1ex.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 2exs.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 4exs.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 3exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 4exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 8exs.; 田耕市庭, 2017-XI-17, 1ex.

【備 考】各地の林内落葉下に生息する, 殻径 2.5 ~ 3 mm ほどの低平な円錐形の殻をもつ。殻色は淡黄褐色をして光沢がある。臍孔は閉じる。ヒメベッコウに類似するが, 本種の方が一回り大きく成長する。識別の目安として, 幼貝の時は螺層の間隔が広く, 相対的に螺塔が低くなる。生息数は多く, 豊北町でも各地の落葉中にみられる。

52. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A.Adams, 1868) (陸産)

【記 録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 5exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 1ex.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 1ex.; 杓子山, 2017-IX-13, 1ex.; 栗野峠, 2017-IX-13, 4exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 14exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 8exs.

【備 考】各地の林内の落葉下にすむ殻径 2.5 mm ほどの微小貝である。螺塔の高い円錐形で巻き数が多い。螺層の間隔が狭いので, 他の微小貝との識別は容易である。体層周縁に角があり, 殻底は弧状となる。殻表面はなめらかで光沢がある。豊北町では各地に生息している。

53. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) (陸産)

【記 録】角島, 1990, 河上 勲.

【備 考】各地の林内落葉下に生息する, 殻径 5 mm ほどの低い円錐形の貝。殻表面はやや濃い赤褐色。絹のような鈍い光沢がある。ルーペでみると殻表に弱い波状の成長線がある。臍孔は閉じる。生息数は少なく, 豊北町での記録は河上 勲氏の記録がある(河上ら, 1990)のみである。環境省 RDB では情報不足。

54. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901) (陸産)

【記 録】角島夢ヶ崎, 1997-X-19, 中村孝博; 島戸地方, 2017-X-5, 3exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 3exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.

【備 考】林内の落葉中に生息する殻径 2.5 mm ほどの微小貝である。殻は丸みのある円錐形で, 淡黄褐色をしている。体層が大きく周縁は丸い。臍孔は狭く小さい。ヒメハリマキビ, ヒゼンキビに類似するが, 3種の中では最も大きい。生息数は少ない。豊北町でも4ヶ所で記録したにすぎない。

55. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902) (陸産)

【記 録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 1ex.; 栗野峠, 2017-IX-13, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.

【備 考】林内の落葉中に生息する殻径 2.3 mm ほどの微小貝である。ハリマキビに似るが, 次体層の脹らみが弱く螺塔もやや低い。臍孔は狭く小さい。ハリマキビより小さく, 殻形はヒメハリマキビに似ているが体層が大きく, ヒメハリマキビほど螺塔は高くない。殻全体が丸みをもたない。生息数は極めて少ない。豊北町では3ヶ所の落葉中からそれぞれ1個体記録したのみである。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

56. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900) (陸産)

【記 録】矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 1ex.

【備 考】林内の落葉中に生息する殻径 2 mm 弱の微小貝である。やや螺塔の高い丸みのある円錐形をしている。殻表面には細かい縦脈があり, 絹のような光沢が現れる。臍孔は狭く小さい。体層が大きく周縁は丸い。ハリマキビと比べて小さい。オオウエキビによく似ているが, オオウエキビは周縁にキール状の角が形成

されるが、本種は周縁が円いことにより区別される。生息数は極めて少ない。豊北町内では1ヶ所で1個体記録したのみである。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

57. ウスイロシタラガイ *Parasitula pallida* (Pilsbry, 1902) (図版 III-33a-c) (陸産)

【記録】 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 2017-V-4, 1ex.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 1ex.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 2exs..

【備考】 里山近くの灌木の葉裏や落葉中にみられる殻径 3.5 mm ほどの微小貝である。マルシタラガイに似るが、殻全体が一回り小さい。殻表は淡い黄褐色で、殻頂部は白色である。殻は薄くもろい。山口県内には広く生息すると考えられるが記録は少ない。豊北町では3ヶ所で記録した。

58. マルシタラガイ *Parasitula reinhardti* (Pilsbry, 1900) (図版 III-34a-c) (陸産)

【記録】 角島元山, 1991-XII-22; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 2exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 4exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 4exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 4exs.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 3exs..

【備考】 林内のアオキなどの常緑広葉樹の葉裏に付着していることが多い。殻径 5 mm, 殻高 4 mm ほどの丸みのある円錐形で淡黄白色。薄質半透明で光沢がある。幼貝では周縁角が強く、一見別種にみえるが、成貝では周縁が丸くなる。殻形がウスイロシタラガイに似るが、ウスイロシタラガイより一回り大きく、生息地は市街地近くの里山というよりは、山中の林床落葉下になる傾向がある。県内各地に生息し、豊北町では広い地域で記録した。

59. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883) (図版 III-35a-c) (陸産)

【記録】 角島元山西迫, 2017-X-5, 42exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 1ex.; 西沢, 2017-VIII-26, 6exs.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 4exs.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 5exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 3exs.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 4exs.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 5exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 14exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 37exs.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 15exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 1ex.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 1ex.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 1ex..

【備考】 林内の落葉中にすみ、殻径 2 mm, 殻高 2.5 mm ほどの螺塔の高い円錐形の殻をもつ。各層に5～6条の螺条脈があり、体層には角をもつ。豊北町では広く分布し個体数も多い。

60. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* Habe, 1964 (図版 III-36a-c) (陸産)

【記録】 角島, 1990, 河上 勲; 角島元山港付近, 2014-XI-22, 矢野重文; 角島元山西迫, 2017-X-5, 5exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 2exs.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 5exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 2exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 15exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 9exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 1ex.; 杓子山, 2017-IX-13, 5exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 1ex.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 5exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 附野海水浴場付近, 2017-IX-26, 22exs..

【備考】 林内の落葉中にすみ、殻径 1.8 mm, 殻高 1.2 mm ほどでやや低い円錐形。体層の周縁に3本の殻皮質板状褶を有する螺状脈(矢野, 1990)がある。薄く半透明で、灰白色の殻色。臍孔は狭く開く。山口県内では各地に見られるが、個体数は多くない。豊北町では記録地も多く、比較的個体数も多い。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

61. ヒラシタラガイ *Sitalina latissima* (Pilsbry, 1902) (図版 III-37a, b) (陸産)

【記録】 島戸地方, 2017-X-5, 7exs..

【備考】 ウメムラシタラガイに似て低い円錐形をしているが、低面も広く一回り大きい。体層の周縁に数

本の弱い殻皮質板状褶を有する螺旋脈（矢野, 1990）がある。殻径 2.3 mm, 殻高 1.5 mm。山口県初記録である。豊北町では北端の島戸地方の海岸に近い林床落葉中で幼貝を含めて 7 個体記録した。環境省 RDB では、絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。

62. カサキビ *Trochochlamys crenulata crenulata* (Gude, 1900) (陸産)

【記録】白滝山, 2015-IX-17, 3exs.; 西沢, 2017-VIII-26, 1ex.; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 7exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 1ex.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 2exs.; 栗野峠, 2017-IX-13, 3exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 2exs.

【備考】殻径 3 mm, 殻高 4 mm ほどの円錐形の微小貝である。殻頂部が鋭角で、殻頂から周縁にかけてほぼ直線的な円錐形。体層周縁にはキール状の角がある。林内の落葉下に生息し、豊北町内各地に、比較的多産する。

63. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) (図版 III-38a-c) (陸産)

【記録】田耕原城見坂, 2017-IX-2, 3exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 7exs.

【備考】林内の落葉下に生息し、殻径 2 mm, 殻高 3 mm ほどの微小な貝。淡い黄褐色で丸みのある円錐形をしている。体層の周縁角はキール状で鋭い。臍孔は小さく開く。カサキビやヒメカサキビの幼貝に似るが、螺旋に丸みがある点で区別ができる。山口県内での記録は少ない。豊北町では 2 ヶ所の記録のみである。環境省 RDB では情報不足。

64. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata subcrenulata* (Pilsbry, 1901) (陸産)

【記録】白滝山, 2015-IX-17, 3exs.; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 田耕中山神社, 2017-IX-2, 2exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 1ex.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 1ex.; 西沢, 2017-VIII-26, 3exs.; 田耕田耕神社, 2017-IX-2, 8exs.; 白滝山南麓, 2017-IX-2, 1ex.; 肥中七社大明神, 4exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 4exs.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 2exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 1ex.; 杓子山, 2017-IX-13, 6exs.

【備考】森林の落葉中に生息する殻径 3 mm ほどの微小貝である。低円錐形で極めて薄質である。殻表は微細な糸状縦脈と不明瞭な螺旋脈が現れ、光沢はない。殻頂角が大きく、殻は全体としてカサキビに比較して低い。周縁角はキール状で鋭い。山口県内の各地に生息する。豊北町でも比較的多くみられる。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

65. ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga* (Pilsbry et Hirase, 1877) (図版 IV-39a-c, VII-7) (陸産)

【記録】角島尾山, 1991-XII-22, 2exs.; 角島元山, 1994-IV-1, 杉村智幸; 角島夢ヶ崎, 2015-X-3, 1ex.; 角島元山神社裏林, 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏・杉村智幸; 2017-XI-21, 3exs.; 角島元山西迫, 2017-X-5, 12exs.

【備考】林内落葉下に生息する殻径 4 mm, 殻高 3 mm ほどで、濃い褐色をした円錐形の貝。殻の表面は光沢がある。周縁には弱い角がある。臍孔は閉じる。豊北町では各地で、比較的多くの個体を記録した。町内での記録は古く、25 年以上も前に角島で採集されている（増野, 1992a）。2016 年 11 月、山口県 RDB 改訂に伴う現地調査中に、調査員により神田岬で生貝が採集され、その際、通常の名ミメベッコウに比べて螺旋塔が高く、殻色が濃い褐色をしている点から、萩市見島の固有種ミシマヒメベッコウの特徴に酷似し、その関係が疑われた。以後、関係者の研究によって、豊北町神田岬や角島に生息する個体はミシマヒメベッコウとは識別できず同種であることが判明した。このことからミシマヒメベッコウはナミヒメベッコウのシノニム（同種異名）という扱いになる。詳細は湊・増野・矢野（2018, 投稿中）に詳しい。

ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family CAMAENIDAE

66. シメクチマイマイ *Satsuma (Satsuma) ferruginea* (Pilsbry, 1900) (陸産)

【記 録】白滝山, 1998-III-22, 中村康博.

【備 考】殻径約 17 mm, 殻高約 11 mm の螺塔の円い, 円錐形. 淡褐色の殻色で, 弱い光沢がある. 体層周縁に薄い赤褐色の色帯がある. 殻口は反転し, 内側に小さな瘤が認められる. 臍孔はやや広い. 里山や低山地の林内に生息する. 山口県内では各地に見られるが, 個体数は少ない. 豊北町内では, 中村康博氏が白滝山で記録している (増野宛私信, 2002).

67. コベソマイマイ *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens, 1865) (図版 IV-40a-c, VI-5, VII-8) (陸産)

【記 録】角島元山, 1991-XII-22, 1ex.; 1996-IV-10, 伊藤賢司; 白滝山, 1999-V-9, 1ex.; 2015-IX-17, 3exs.; 附野, 2016-XI-13, 矢野重文; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏・杉村智幸; 2017-XI-17, 3exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 1ex.; 特牛専教寺, 2017-XI-21, 1ex.; 田耕原城見坂, 2017-V-4, 1ex.; 江尻下土井ヶ浜西端海浜林, 2017-XI-17, 2exs.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 1ex.; 栗野, 2017-IX-13, 1ex.; 滝部滝部八幡宮, 2017-IX-13, 1ex.; 寺畑山西麓太郎原峠, 2017-VIII-27, 2exs.

【備 考】市街地周囲から山地まで広い範囲に生息する, 大形の陸貝である. 殻径 30 mm, 殻高 25 mm ほどで, 周縁に濃褐色の細い色帯をもつ. 殻色は黄褐色で鈍い光沢がある. 幼貝の時は臍孔が開くが, 成長とともに閉じる. 県内各地に普通にみられ, 豊北町でも普通種である. 本種は殻のサイズにおいて, 変異が著しく大小多様なものが観察される. 今回の調査でも島戸地方で採取した 1 個体の剖見により, 生殖器の鞭状器が異常に長い個体がみられた. 1 個体の剖見結果であり, 個体変異の可能性が高い.

68. ウスカワマイマイ *Acusta despecta sieboldiana* (Pfeiffer, 1850) (陸産)

【記 録】角島尾山, 1991-XII-22, 1ex.; 角島夢ヶ崎, 1997-VIII-20, 福田 宏; 1997-X-19, 中村孝博; 江尻下土井ヶ浜人類学ミュージアム敷地内, 2016-III-9, 2exs.; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 荒田, 2016-XI-13, 矢野重文・湊 宏・杉村智幸; 荒田海浜アシ原, 2017-V-4, 2exs.; 2017-IX-19, 1ex.; 角島元山西迫, 2017-X-5, 1ex.; 田耕市庭, 2017-XI-17, 1ex.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 1ex.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 1ex.; 阿川土井沖田川用水路, 2017-XI-21, 3exs.; 特牛専教寺, 2017-XI-21, 1ex.; 附野, 2017-IX-26, 2exs.

【備 考】各地の畑や荒地など比較的人家に近い場所に, 普通に生息する. 草藪の根元に群れて生息する. 乾燥に強く, 潮風を強く受ける海浜植物の根元などにもみられる. 殻径 25 mm, 殻高 20 mm ほどの丸い円錐形の貝. 和名のとおり殻が薄く, 成貝になっても殻口は肥厚反転しない. 山口県内に広く生息し, 豊北町でも沿岸部から内陸部まで普通である. 江戸時代に長崎でオランダ商館の医師だったシーボルト Philipp Franz Balthasar von Siebold (1796-1866) に因んだ陸貝 2 種のうち, 本種の学名に彼の名前が入っている (湊, 1989a). もう 1 種はシイボルトコギセルである.

69. タキカワオオベソマイマイ *Aegista (Aegista) friedeliana aperta* (Pilsbry, 1900) (図版 IV-41a-c, VI-2, VII-9) (陸産)

【記 録】白滝山, 1999-V-9, 6exs.; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 2017-V-4, 1ex.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 6exs.; 江尻下土井ヶ浜西端海浜林, 2017-XI-17, 3exs.; 大久保長羽山南麓, 2017-X-5, 1ex.; 白滝山南麓, 2017-X-5, 2exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 1ex.; 杓子山, 2017-IX-13, 1ex.; 堀越特牛駅付近, 2017-IX-26, 4exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 2exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 2exs.

【備 考】里山から山地までの広い範囲の落葉中に生息する, 殻径 15 mm, 殻高 7 mm ほどの低平な円錐形の貝. 殻は濃い黄褐色で堅牢な殻質である. 臍孔が著しく広くチクヤケマイマイに似るが, チクヤケマイマイのように周縁に角はなく丸い. 本種はタイプローカリティが下関市吉見町 (旧豊西上村) で, 旧下関市豊浦

郡出身の瀧川昇平(1976～1943)の採集標本を基に記載された(増野,1990b)。山口県内には、殻の大きさをはじめ殻形・殻表面・生殖器等に変異がある個体が生息し、各形質を比較検討するなど現在研究が進められている。かつては、山口県中・西部にタキカワオオベソマイマイが、県東部にコウベマイマイが生息しているとされた(山口県,2003)。現在、比較対象となっている近縁種には、九州に分布する基亜種フリーデルマイマイ、近畿以西・四国・九州に広く分布するコウベマイマイ、その亜種である四国に分布するトサマイマイ等である(矢野,2015a)。課題解決には、今後の研究を待たなければならない。豊北町にはタキカワオオベソマイマイが生息している。山口県 RDB では準絶滅危惧種。

70. ツシマケマイマイ *Aegista (Aegista) trochula* (A. Adams, 1868) (図版 IV-42a-c, VI-3, VII-10) (陸産)

【記録】特牛専教寺,2015-VIII-5,9exs.; 福田 宏;2016-XI-13,矢野重文・湊 宏・杉村智幸;2017-XI-21,23exs.

【備考】殻径 18 mm, 殻高 12 mm ほどの体層周縁に鋭い角をもつ、低円錐形の殻をもつ。殻表には鱗片状の殻皮が密にある。殻色は濃い茶褐色で、厚く堅く、光沢はない。殻口は反転し、臍孔は狭く深い。山口県内各地で多産するチクヤケマイマイに比べて臍孔が狭いという区別点はあるが、酷似した殻形態である。しかし、軟体部の形態はまったく異なり、別のグループに属している。湊(1996)に拠れば「生殖器の摘出(矢嚢、副嚢、粘液腺を欠くという特徴)によって比較しなければ種の同定が困難」とされている。本種の生息が正式に報告されたのは最近(平野ら,2016)であるが、福田 宏氏らは30年ほど前に、既に本種の生息に気付いていた(平野ら,2016)。本種の生息は、豊北町内でも現地のみ限定されている。生息の要因等についても前掲書の中で議論がなされている。不思議なことに、今回の調査では町内で殻形態の酷似した別種・チクヤケマイマイをまったく記録することができなかった。隣接する豊田町でも狗留孫山と華山で、わずかに数個体の記録しかなく(増野・川野,2017)、こうした点から、チクヤケマイマイは県西部になると次第に減少するのかもしれない。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

71. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda et Habe, in Habe, 1953 (陸産)

【記録】粟野市ノ瀬,2017-IX-13,1ex.

【備考】人家周辺の畑や沿道の草藪など、比較的市街地に生息する。淡黄褐色の薄い殻をもち、殻径 15mm, 殻高 8mm ほどの低円錐形の貝。殻が薄いため軟体部が透けて見えるが、殻頂部にある肝すい臓の鮮やかな黄色が特徴的である。また、この鮮やかな黄色は蛍光性をもつことが知られている(Seki et al., 2008) 殻表面に赤茶色の色帯の有無の個体がある。山口県内に広く生息するが、豊北町では、粟野地域の1カ所で記録した。

72. サンインマイマイ *Euhadra dixonii dixonii* (Pilsbry, 1900) (図版 IV-43a-c) (陸産)

【記録】白滝山,1999-V-9,4exs.

【備考】里山から山地の林内に生息する、殻径 35 mm, 殻高 30 mm ほどの高円錐形の貝。樹木や草本類の枝や葉上にみられ、樹上性。殻は白色の地で、黒色の色帯の有無など多様な模様をもつ。サンイン(山陰)という和名をもつが、山口県内各地、瀬戸内海側にも分布する。豊北町では豊田町との境に位置する白滝山で生体を記録した。これまでのところ、山口県内で最も西限に分布する個体群と考えられる。

73. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi herklotsi* (Martens, 1860) (図版 IV-44a-c) (陸産)

【記録】角島尾山,1988-IV-6,4exs.; 1991-XII-22,1ex.; 1994-IV-1,杉村智幸;1996-IV-10,伊藤賢司;角島元山,1991-XII-22,2exs.;角島,1994-IV-24,中村康博;白滝山,1999-V-9,3exs.;2015-IX-17,2exs.;江尻上神田岬,2016-XI-13,2exs.; 矢野重文・湊 宏・杉村智幸;2017-XI-17,1ex.;附野,2016-XI-13,湊 宏;2017-IX-26,1ex.;特牛専教寺,2016-XI-

13, 矢野重文; 2017-XI-21, 1ex.; 二見, 2017-VIII-27, 2exs.; 島戸地方, 2017-X-5, 1ex.; 江尻下土井ヶ浜西端海浜林, 2017-XI-17, 1ex.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 6exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 3exs.; 角島西迫, 2017-X-5, 1ex.; 荒田荒田川上流, 2017-IX-26, 1ex.; 滝部滝部神社, 2017-IX-13, 1ex.; 大川客神社, 2017-IX-26, 1ex.; 豊北峡, 2017-IX-13, 1ex.; 肥中七社大明神, 2017-X-5, 1ex..

【備考】里山から山地の林内に生息する、殻径 40 mm、殻高 25 mm ほどの大形低円錐形の貝。落葉上をはっていることも多いが、樹幹や枝に上っていることもある。山口県内に普通に生息する大形種として本種を含め、セトウチマイマイ、コベソマイマイの 3 種があり、その中でも最大の殻をもつ。黄褐色の殻表面に黒色の色帯の有無など、多様な模様が現れる。豊北町においては、優占して生息するマイマイ類である。

74. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894) (陸産)

【記録】杓子山, 2017-IX-13, 1ex..

【備考】里山や山地の林内に生息する、殻径 30 mm、殻高 25 mm ほどの低円錐形の貝。林床の落葉上や人家近くの藪にもみられ、人里にすむ馴染みのある貝である。殻色は淡黄褐色で、黒色の色帯の有無で多様な模様が現れる。セトウチ（瀬戸内）という和名をもつが、山口県内では普通に見られるが、豊北町では杓子山で 1 個体記録しただけである。過去において藤原（1968）は角島で記録しており、また増野は福田宏氏から私信（1986）とし「元山、尾山で本種を採集した」との情報を得ており（増野, 1992a）、県内の他の地域に比較して生息密度は小さいながらも、確実に生息しているものと考えられる。

75. リシケオトメマイマイ *Aegista collinsoni lischkeana* (Kobelt, 1879) (図版 IV-45a-c, VII-11) (陸産)

【記録】角島元山, 1988-IV-6, 1ex.; 1991-XII-22, 3exs.; 1994-IV-1, 杉村智幸; 1996-IV-10, 伊藤賢司; 神玉住吉神社, 1988-IV-6, 2exs.; 角島尾山, 1988-IV-6, 3ex.; 1991-IV-29, 3exs.; 1991-XII-22, 4exs.; 白滝山, 1999-V-9, 6exs.; 角島元山港付近, 2017-X-5, 1ex.; 角島元山神社裏林, 2017-XI-21, 1ex.; 角島元山西迫, 2017-X-5, 1ex.; 江尻上神田岬, 2016-XI-13, 矢野重文; 2017-V-9, 1ex.; 大川客神社, 2017-IX-26, 1ex.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 3exs.; 田耕原城見坂, 2017-V-4, 2exs.; 神田特牛港対岸藪林床, 2017-IX-26, 3exs..

【備考】山口県北部の海岸と島嶼部に分布する殻径 13 mm、殻高 9 mm ほどの低い円錐形の貝である。樹上性で草本類の葉上や低木の樹幹をほう。殻は白地に赤褐色の色帯をもち、美しい陸貝である。萩市の指月公園で、萩中学校のお雇いドイツ人教師ラインフォルト・ヒレル（1841～1903）によって採集された個体を基に、1879年に萩市をタイプローカリティとして記載された（河上ら, 1990）。福田ら（1989）は萩市から下関市（旧豊田町狗留孫山）までの個体を精査・比較して、本種が形態的にも異なる 2 種を含むことを報告した。それに拠ると長門市（旧油谷町伊上）付近を境に、東側に軟体部の外套膜上に顕著な黒色火焰彩をもつリシケオトメマイマイが、西側地域の個体には火焰彩が弱く小斑が散在する別の型が分布している。両者を比較すると、リシケオトメマイマイはいくぶん小さい傾向がある。豊北町内には、別の型とされる個体が島嶼部の角島や白滝山、神田岬、矢玉付近まで、山地のみでなく平地の神社叢にも生息している。両者の生殖器を比較したが差異は認められなかった。外套膜上に斑紋をもたない個体群は、隣接する豊田町内にも広く生息（増野・川野, 2017）しており、県東部の瀬戸内海側でも各所で記録（増野, 1992b, 2008a, b, d; 増野・阿部, 2001）され、本種との関係に興味もたれる。今回の報告では、豊北町に生息する個体群をリシケオトメマイマイとした。なお、今回の調査で町内の神田岬と矢玉神社ではキュウシュウシロマイマイとの混生が確認された。環境省 RDB では準絶滅危惧種、山口県 RDB では絶滅危惧 IB 類。

76. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae dacostae* Gude, 1900 (図版 IV-46a-c) (陸産)

【記録】白滝山, 1999-V-9, 3exs..

【備考】各地の里山や山地の林内に生息する、樹上性の貝である。殻径 11 mm, 殻高 8 mm ほどで、螺塔はやや高い。殻は濃い褐色で、縫合の淡色帯は明瞭で幅が狭い。臍孔周辺も淡色となる。山口県では中・西部に多くみられる。豊北町の白滝山ではリシケオトメマイマイとの混生がみられる。生息数は極めて少ない。

77. キュウシュウシロマイマイ *Aegista eumenes eumenes* (Westerlund, 1883) (図版 IV-47a-c, VI-4, VII-12) (陸産)

【記録】二見, 2017-VIII-27, 3ex.; 江尻上神田岬, 2017-V4, 2exs.; 大川客神社, 2017-IX-26, 2exs.; 矢玉江向矢玉神社, 2017-VIII-26, 8exs..

【備考】殻径 15 mm, 殻高 10 mm ほどの低円錐の形で、殻色が灰白色から淡褐色をした樹上性の貝である。北九州市の平尾台や山口県の秋吉台にある石灰岩の草原台地やその周囲の樹林を恰好の生息場所とする。本種の殻表には全面白色の固体に混じって、淡い赤褐色の色帯や殻底面全体が淡く染め分ける型など多様なタイプが見られる。タイプ産地は門司であるが、殻底を染め分ける型はソメワケシロマイマイとしてタイプ産地を下関市豊浦町として記載された。また、本種の生息の東限域は山口県中央部とされている(増野・鳥越, 2011)。県東部には別種のチョウシュウシロマイマイが生息していることが分かっている(増野・鳥越, 2012, 2014; Hirano *et al.*, 2015)。県内での生息は、過去の調査では下関市関門地域及び六連島、蓋井島などの島嶼部、宇部地域、秋吉台一帯であることがわかっていたが、県北西部の実態が把握できていなかった。今回の調査で、北限は豊北町神田岬付近であることが判明した。また、神田岬や矢玉地域ではリシケオトメマイマイと混生していることもわかった。

タワラガイ科 Family DIAPHERIDAE

78. タワラガイ *Sinoenaea iwakawa* (Pilsbry, 1900) (陸産)

【記録】田耕中山神社, 2017-IX-2, 4exs.; 阿川浦神社, 2017-X-5, 1ex.; 田耕原城見坂, 2017-IX-2, 2exs.; 豊北峡, 2017-IX-13, 2exs.; 宇賀上峠, 2017-IX-2, 2exs.; 江尻上神田岬, 2017-V4, 1ex..

【備考】殻高 4 mm 前後で、殻が米俵の形をしている。殻の各層にはやや斜めの細い縦肋がある。里山や山地の落葉下に生息するが多産はしない。肉食性で、死んだ貝殻から数個体がまとまって出てきたことがある。豊北町内では落葉下から見つかり、比較的産地は多いが個体数は少ない。

二枚貝綱 Class BIVALVIA

イシガイ目 Order UNIONOIDA

イシガイ科 Family UNIONIDAE

79. ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1877) (図版 V-48) (淡水産)

【記録】阿川, 1962-V-23, 萩博物館所蔵; 阿川, 1992-III-22, 1ex., 杉村智幸。

【備考】全国の池・沼・湖沼、河川の止水域などにすむ、大形の二枚貝。かつてはドブガイ、ヌマガイ、タガイの別名で呼ばれていたが、区別が明確でないためにドブガイとして総称されている(波部, 1990)。最近の研究で、遺伝子型や繁殖期、グロキジウムなどの微細構造形態などの相違によって複数型が含まれていることが報告されている(増田・内山, 2004)。近藤(2015)ではタガイとヌマガイにまとめている。本種のような淡水産二枚貝には、タナゴ類が鰓に産卵するという興味ある生態がある。山口県内各地に生息するが、日常は水底で生活しており、詳細な生息実態は把握できていない。豊北町内には溜池は少ないが、河川にできた淵や用水路中に生息している。今回報告する記録は 2 例で、いずれも阿川地域の個体である。

80. ニセマツカサガイ *Inversunio yanagawaensis* (Kondo, 1982) (図版 V-49) (淡水産)

【記録】阿川大曲, 2017-XI-21, 6exs..

【備考】緩やかな流れのある河川の下流域や用水路などの砂泥底にすむ殻長 50 mm、殻高 35 mm ほどの卵円形をした二枚貝。殻質は厚く、表面には後背縁の後端付近が湾入し、殻頂から後端縁にかけて太く低い隆起がある（増田・内山, 2004）。マツカサガイに酷似する。山口県内では長門市・萩市・山口市・宇部市・下関市豊田町などで記録されている。豊北町では阿川地域の用水路で記録した。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

マルスダレガイ目 Order VENEROIDA

シジミ科 Family CORBICULIDAE

81. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Müller, 1774) (図版 V-50a, b) (淡水産)

【記録】阿川大曲, 2017-XI-21, 19exs.; 阿川, 2017-XI-21, 2exs. 江尻下土井ヶ浜用水路, 2017-XI-17, 7exs..

【備考】在来のマシジミと極めて近縁と考えられ（増田・内田, 2004）、各地の用水路や川に繁殖している。海外からの移入種で、食用の活シジミとして輸入され、その稚貝等が野外で繁殖したと考えられる。雌雄同体で卵胎生である。山口県内でも市街地を流れる用水路を中心にマシジミが減少し、本種が拡大している。殻形は似ているが、マシジミの殻色が黒く殻内面が鮮やかな紫色を呈するに對し、タイワンシジミは殻色が黄色く、殻内面全体が白色で橙色になることもある。殻形態の差異はあくまでも目安にすぎず、外観からの識別はむずかしい。豊北町内の用水路でマシジミとの混生を観察した。

82. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 (図版 V-51a, b) (淡水産)

【記録】田耕市庭, 2017-XI-17, 2exs.; 阿川大曲, 2017-XI-21, 2exs.; 江尻下土井ヶ浜用水路, 2017-XI-17, 8exs.; 江尻下土井ヶ浜用水路河口, 2017-XI-17, 1ex..

【備考】在来の淡水性二枚貝で、河口域に生息するヤマトシジミとともに、かつては食用にされた。殻長 20～30 mm で、生息環境によってその大小に多様さが現れる。小河川の流水中や池・沼などの止水域にもすむ。生息適地の減少とともに、外来のタイワンシジミの移入により生息地は少なくなっている。雌雄同体で卵胎生。殻色は若齢個体では黄褐色であるが、成貝では漆黒光沢をもつ。殻内面は鮮やかな紫色を呈する。豊北町では阿川地域や田耕地域の用水溜池と用水路で記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類。

まとめ

調査の結果、下関市豊北町から陸産 22 科 70 種、淡水産 8 科 12 種、計 34 科 82 種を記録することができた。レッドデータブック掲載種などの重要種は、コシダカヒメモノアラガイ（図版 I-7, 環境省 RDB: 情報不足）、モノアラガイ（環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、ヒラマキガイモドキ（図版 I-8a-c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、ナガオカモノアラガイ（図版 II-16, 環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、スナガイ（図版 II-13, 環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、サナギガイ（図版 I-12, 環境省 RDB: 絶滅危惧 I 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 IB 類）、キセルガイモドキ（図版 II-19, 山口県 RDB: 準絶滅危惧種）、カワモトギセル（環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類; 山口県 RDB: 準絶滅危惧種）、モリヤギセル（環境省 RDB: 準絶滅危惧; 山口県 RDB: 準絶滅危惧種）、ヒラベッコウガイ（環境省 RDB: 情報不足）、オキノクニキビ（図版 III-30a-c, 環境省 RDB: 情報不足）、キヌツヤベッコウ（環境省 RDB: 情報不足）、ヒゼンキビ（環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、ウメムラシタラガイ（環境省 RDB: 準絶滅危惧）、ヒラシタラガイ（図版 III-37a, b, 環境省 RDB: 絶滅のおそれのある地域個体群）、オオウエキビ（図版 III-38a-c, 環境省 RDB: 情報不足）、ヒメカサキビ（環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、タキカワオオベソマイマイ（図版 IV-41a-c, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、ツシマケマイマイ（図版 IV-42a-c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧種）、

リシケオトメマイマイ (図版 IV-45a-c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧種; 山口県 RDB: 絶滅危惧 IB 類), ニセマツカサガイ (図版 V-49, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類; 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), マシジミ (図版 V-51a, b, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類) の 22 種であった。

また, 山口県初記録がミジンヤマタニシのハズレミジンヤマタニシ型 (図版 I-2a-c), オオピルスブリムシオイ (矢野仮称) (図版 I-4a-c), ヒラシタラガイ, オキノクニキビの 4 種であった。

謝 辞

本稿を作成するにあたり, 矢野重文氏 (日本貝類学会評議員) には同定作業や貴重な情報提供などにおいて懇切丁寧にご教示をいただきました。湊 宏氏 (日本貝類学会評議員, 理学博士) には原稿を細部にわたり査読し, 誤りを指摘・助言をいただきました。両氏に対し心より感謝申し上げます。また, 直接, 貴重な情報や記録の提供を受けた方や, 文献上の記録を引用させていただいた多くの方に対しましても, ここに記してあわせてお礼を申し上げます。

参考文献

- 東 良雄 (2001) 兵庫県南東部で確認されたハズレミジンヤマタニシ. ちりぼたん, **32**(1-2): 35.
- 藤原廣治 (1968) 豊北町周辺, 角島の貝類. 山口県の自然, **20**: 45-48.
- 波部忠重 (1990) 日本産非海産水棲貝類目録 (その 1 ~ 3) . ひたちおび, (54) : 3-6, (55) : 3-9, (56) : 3-7. 東京貝類同好会 .
- 早瀬善正 (2008) ミジンヤマタニシの平巻状異常個体例. かきつばた, (33): 49-50.
- 早瀬善正 (2014) ミジンヤマタニシの異常巻き個体. かきつばた, (39): 49-50.
- Hirano, T., Kameda, Y., & Chiba, S. (2015) A new species of Aegista Gastropoda: Eupulmonata: Camaenidae from the Chugoku District, western Honshu, Japan. *Molluscan Research*, **35**(2): 128-138.
- 平野尚浩・亀田勇一・福田 宏・齋藤 匠 (2016) 本州・山口県から新たに記録されたツシマケマイマイ (腹足綱: 有肺類: ナンバンマイマイ科) の移入個体群. ちりぼたん, **46**(3-4): 149-153.
- 福田 宏・土田英治 (1989) リシケオトメマイマイの再発見とその分布. ちりぼたん, **19**(4), 97-104.
- 福田 宏 (2002) 徳地町の貝類 (pp.60-67) in 徳地の自然. 101pp, 徳地町文化協会, 山口徳地 .
- 豊北町史編纂委員会 (1994) 豊北町史 二. 1289pp, 豊北町 .
- 河上 勲・増野和幸・下瀬信雄・吉屋安隆・樋口尚樹・清水満幸 (1990) カタツムリの不思議—萩地方の陸産貝—. 2+85pp. +2pls. +1map., 萩市郷土博物館, 萩 .
- 河本卓介 (1964) 下関吉見地区の貝類. 山口県の自然, **12**: 22-31.
- 狩野泰則・後藤好正 (1996) 横浜市の陸産貝類. 神奈川自然保全研究会報告書, (14): 43-106.
- Kano Yasunori (1996) A revision of the species previously known as *Hawaiiia minuscula* in Japan and the discovery of the Helicodiscidae, the family new to Japan. *The Yuritagai (Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi)*, **4**(1/2): 39-59. [狩野泰則: 日本産“ヒメコハクガイ”の再検討と本邦初記録のイシノシタ科 (新称)].
- 環境省 (2017) 環境省レッドリスト 2017 別添資料 5 貝類. <http://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/MOERedlist2017.pdf>.
- 環境省 (2017) 環境省レッドリスト 2017 補遺資料掲載種一覧 別添資料 1. <http://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/>

redlist/MOERedlist2017_betten1.pdf.

- 黒田徳米・波部忠重 (1949) かたつむり .129pp., 三明社, 東京 .
- 木村昭一 (2014) 萩市笠山のミジンヤマタニシの異常巻き個体 .かきつばた , (39): 47-48.
- 近藤高貴 (2015) <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kondo/unisto/dobu.html>. 日本産イシガイ目貝類図鑑 .
- 増野和幸 (1989) 美祿郡陸産ならびに淡水産貝類 .57pp.(oncl. 8pls.) 自刊 (印刷) . 山口小郡 .
- 増野和幸 (1990a) 下関市蓋井島の陸産貝類 . 山口県の自然 , **50**: 36-38.
- 増野和幸 (1990b) 山口の貝人伝 (1) 瀧川昇平氏 (1876-1943) . ユリヤガイ , **1**: 35-36.
- 増野和幸 (1992a) 豊北町角島の非海産貝類 . ユリヤガイ , **2**: 1-8.
- 増野和幸 (1992b) 上関町皇座山に生息するオトメマイマイ属の一種 . ユリヤガイ , **2**: 14.
- 増野和幸 (1992c) オオクビキレガイ山口県に産す . ちりぼたん , **22**(2): 55-56.
- 増野和幸・阿部弘和 (2001) 山口県熊毛郡上関町長島および八島の非海産貝類 . 山口生物 , **27**: 3-16.
- 増野和幸 (2008a) 山口県田布施町の非海産貝類 . 山口県の自然 , **68**: 16-23.
- 増野和幸 (2008b) 山口県熊毛郡平生町の非海産貝類相 . 山口生物 , **30**: 26-51.
- 増野和幸 (2008c) 移入種オオクビキレガイの山口県での生息状況 . 山口県の自然 , **68**: 24-27.
- 増野和幸 (2008d) 自然観察ガイドブック作成のための基礎資料 上関町の非海産貝類 . i-iii+42pp., 自刊 (印刷) , 山口 .
- 増野和幸 (2011) 山口県内で生息が拡大する外来種オオクビキレガイ *Rumina decollate*. 山口県の自然 , **71**: 33-36.
- 増野和幸・鳥越兼治 (2011) キュウシュウシロマイマイ 2 亜種の殻形態と生息環境 . *Venus*, **69** (3-4): 177-194.
- 増野和幸・鳥越兼治 (2012) キュウシュウシロマイマイ 2 亜種の軟体部形質の比較 . *Venus*, **70** (1-4): 25-40.
- 増野和幸・鳥越兼治 (2014) キュウシュウシロマイマイ種群とシロマイマイにおける殻形態と軟体部形質の比較 . *Venus*, **72** (1-4): 89-108.
- 増野和幸・川野敬介 (2017) 下関市豊田町の陸産・淡水産貝類 . 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書 , (9): 7-49.
- 松隈明彦・秋月定良・秋月シズカ・嶺井久勝 (2006) 偶発的移入種オオクビキレガイ (腹足綱: オオクビキレガイ科) の福岡県での生息状況とその拡散速度 . ちりぼたん , **37**(1): 7-12.
- 増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類 . 240pp., 株式会社ビーシーズ, 東京 .
- 湊 宏 (1980) 陸産貝類の観察と研究 . 85pp., ニュー・サイエンス社, 東京 .
- 湊 宏 (1988) 日本陸産貝類総目録 . 294pp., 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜 .
- 湊 宏 (1988) 淡路島で見つかったハズレミジンヤマタニシ (新種) . *Venus*, **47**(3): 155-157.
- 湊 宏 (1989) シーボルトコギセルガイ . 日本の生物 , **3**(5): 48-54.
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究 . *Venus*, Supplement 2: 212pp. + tables 6 + plates 74. 日本貝類学会 .
- 湊 宏・魚住賢司 (1991) 北九州市で見つかったオオクビキレガイ . ちりぼたん , **22**(3): 72-74.
- 湊 宏・矢野重文・魚住賢司 (1996) 福岡市で採集されたツシマケマイマイ . 九州の貝 , (46): 7-9.
- 湊 宏・増田 修 (1998) 日本産野生生物目録 (44) , 軟体動物門: マキガイ綱 (腹足綱) , ニマイガイ綱 (二枚貝綱) . (pp. 25-48) . In 「環境庁 (編) : 日本産野生生物目録—本邦野生動物の種の現状—」 . 49pp., 自然環境研究センター, 東京 .
- 湊 宏・藤原廣治・伊藤賢司 (1999) 岩国市城山のカワモトギセル . ちりぼたん , **29**(3): 57-59.
- 湊 宏・増野和幸・矢野重文 (2018, 投稿中) 山口県萩市の見島産“ミシマヒメベッコウ” (シタラ科) の生殖器形態とその分類学的知見 .

- 西 浩孝・西 邦雄 (2014) 宮崎県小林市で発見されたミジンヤマタニシの多数の奇形.九州の貝,(82): 40-42.
- 潮崎正浩 (2013) 体層の外れたミジンヤマタニシ 2 例.九州の貝,(81): 33-34.
- 島根県 (2014) 改訂 レッドデータブック 2014 動物編. 15pls.+318pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.
- Seki, K., Ampom, W., & Asami, T. (2008) Fluorescent pigment distinguishes between sibling snail species. *Zoological Science*, (25): 1212-1219.
- 矢野重文 (1990) 四国新記録の陸産貝類 (I) —ヒラシタラー. まいご,(4): 20-23.
- 矢野重文 (2008) 魚住賢司さんの思い出.九州の貝,(70): 5-11.
- 矢野重文 (2015a) 種の考察 (分布図からのアプローチ). まいご,(22): 21-31.
- 矢野重文 (2015b) 九州本土及びその周辺 (トカラ列島以北) に生息するムシオイガイ類.九州の貝,(84): 3-13.
- 矢野重文 (2016) ナタネガイ類の分類について. まいご,(23): 3-10.
- 山口県 (2003) レッドデータブックやまぐち (貝類). 2pls.+55pp. 山口県環境生活部自然保護課, 山口.
- 山下博由・福田 宏 (1996) サナギガイの殻形態と分布 (腹足類: 柄眼目: サナギガイ科). ユリヤガイ,(4(1-2)): 169-177.

下関市豊北町の陸産・淡水産貝類のリスト

腹足綱 Class GASTROPODA

アマオブネガイ目 Order CYCLONERITIMORPHA

アマオブネガイ科 Family NERITIDAE

1. イシマキガイ *Chithon retropictum* (Martens, 1879)

新生腹足目 (中腹足目) Order CAENOGASTROPODA

ヤマタニシ科 Family CYCLOPHORIDAE

2. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860
3. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus campanulatus* Martens, 1865
4. ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900)
ハズレミジンヤマタニシ型 *Nakadaella ogaitoi* Minato, 1988
5. ヤマグルマガイ *Spirostoma japonicum japonicum* (A. Adams, 1867)

ムシオイガイ科 Family ALYCAEIDAE

6. ピルスブリムシオイガイ *Dicharax pilsbryi* (Kobelt, 1902)
7. オオピルスブリムシオイガイ (矢野仮称) *Dicharax* sp. MS.

ゴマガイ科 Family DIPLOMMATINIDAE

8. キュウシュウゴマガイ *Diplommata (Sinica) tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry et Hirase, 1904

吸腔目 Order SOREOCONCHA

クビキレガイ科 Family Truncatellidae

9. ヤマトクビキレガイ *Truncatella pfeifferi* Martens, 1860

カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

10. ヘソカドガイ *Paludinella japonica* (Pilsbry, 1901)
11. オオウスイロヘソカドガイ *Paludinella tanegashimae* (Pilsbry, 1924)

カワニナ科 Family PLEUROCERIDAE

12. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)

モノアラガイ目 (基眼目) Order BASOMMATOPHORA

サカマキガイ科 Family PHYSIDAE

13. サカマキガイ *Physa acuta* Draparnand, 1805

モノアラガイ科 Family LYMNÆIDAE

14. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould, 1859)

15. コシダカヒメモノアラガイ *Fossaria truncatula* (Müller, 1774) 環境省 (情報不足)

16. モノアラガイ *Lymnaea auricularia japonica* Jay, 1857 環境省 (準絶滅危惧)

ヒラマキガイ科 Family PLANORBIDAE

17. ヒラマキガイモドキ *Polyphysa hemisphaerula* (Benson, 1842) 環境省 (準絶滅危惧)

カワコザラガイ科 Family FERRISSIIDAE

18. カワコザラガイ *Laevapex nipponica* (Kuroda in Is. Taki, 1860)

後鰓亜綱 Subclass OPISTHOBRANCHOA

マイマイ目 (柄眼目) Order STYLOMMATOPHORA

オカモノアラガイ科 Family SUCCINEIDAE

19. ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901) 環境省 (準絶滅危惧)

20. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrara* (Gould, 1859)

スナガイ科 Family GASTROCOPTIDAE

21. スナガイ *Gastrocopta armigerella* (Reinhardt, 1877) 環境省 (準絶滅危惧)

サナギガイ科 Family PUPILLODAE

22. サナギガイ *Pupilla cryptodon* (Heude, 1882) 環境省 (絶滅危惧 I 類) 山口県 (絶滅危惧 IB)

マキゾメガイ科 Family ACANTHINULIDAE

23. マルナタネガイ *Parazoogenetes orcula* (Benson, 1850)

24. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* Reinhardt, 1886

ミジンマイマイ科 Family VALLONIIDAE

25. ミジンマイマイ *Vallonia pulchellula* (Heude, 1882)

キセルガイモドキ科 Family ENIDAE

26. キセルガイモドキ *Mirus reinjanus* (Kobelt, 1875) 山口県 (準絶滅危惧)

キセルガイ科 Family CLAUSILIIDAE

27. スグヒダギセル *Paganizaptyx stimpsoni subgibbera* (Boettger, 1877)

28. カワモトギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) kawamotoi* Kuroda et Taki, 1944 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (準絶滅危惧)

29. モリヤギセル *Vastina (Vastina) vasta moriyai* (Kuroda et Taki, 1944) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (準絶滅危惧)

30. ナミギセル *Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica* (Crosse, 1871)

31. シイボルトコギセル *Phaedusa sieboldii* (L. Peiffer, 1848)

オカチウジガイ科 (オカチヨウジガイ科) Family SUBULINIDAE

32. オカチヨウジガイ *Allopeas clavulinum* Potilz et Michaud, 1838

33. ヌウドオカチヨウジガイ *Allopeas* sp. cf. *heudei* (Pilsbry, 1906)

34. トクサオカチョウジガイ *Paropeas achatinaeum* (Pfeiffer, 1846)
35. ホソオカチョウジガイ *Allopeas pyrgula* (Schmacker et Boettger, 1891)
36. サツマオカチョウジガイ *Allopeas satsumense* (Pilsbry, 1906)
37. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758)
- ナタネガイ科 Family PUNCTIDAE**
38. ヒメナタネガイ *Punctum amblygonum pretiosum* Gude, 1900
39. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904
40. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900
41. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry et Hirase, 1904
- コハクガイ科 Family ZONITIDAE**
42. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1816)
- イシノシタ科 Family HELICODISCIDAE**
43. ノハラノイシノシタ *Helicodiscus (Hebetoidiscus) singleyanus inermis* Baker, 1929
- ナメクジ科 Family PHILOMYCIDAE**
44. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901)
- コウラナメクジ科 Family LIMACIDAE**
45. チャコウラナメクジ *Lehmannia valentiana* (Férussac, 1882)
- ベッコウマイマイ科 Family HELICARIONIDAE**
46. ヒラベッコウガイ *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900) 環境省 (情報不足)
47. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877)
- シタラ科 Family EUCONULIDAE**
48. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900)
49. オキノクニキビ *Trochoeh okiensis* (Pilsbry et Hirase, 1908) 環境省 (情報不足)
50. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877)
51. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902)
52. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868)
53. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) 環境省 (情報不足)
54. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901)
55. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902) 環境省 (準絶滅危惧)
56. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900)
57. ウスイロシタラガイ *Parasitala pallida* (Pilsbry, 1902)
58. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900)
59. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883)
60. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* Habe, 1964 環境省 (準絶滅危惧)
61. ヒラシタラガイ *Sitalina latissima* (Pilsbry, 1902) 環境省 (絶滅のおそれのある地域個体群)
62. カサキビ *Trochochlamys crenulata crenulata* (Gude, 1900)
63. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) 環境省 (情報不足)
64. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata subcrenulata* (Pilsbry, 1901) 環境省 (準絶滅危惧)
65. ナミヒメベッコウ *Yamatochlamys vaga vaga* (Pilsbry et Hirase, 1877)
- ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family CAMAENIDAE**
66. シメクチマイマイ *Satsuma (Satsuma) ferruginea* (Pilsbry, 1900)

67. コベソマイマイ *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens, 1865)
68. ウスカワマイマイ *Acusta despecta sieboldiana* (Pfeiffer, 1850)
69. タキカワオオベソマイマイ *Aegista (Aegista) friedeliana aperta* (Pilsbry, 1900) 山口県 (準絶滅危惧)
70. ツシマケマイマイ *Aegista trochula* (A. Adams, 1868)
71. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda et Habe, in Habe, 1953
72. サンインマイマイ *Euhadra dixonii dixonii* (Pilsbry, 1900)
73. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi herklotsi* (Martens, 1860)
74. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894)
75. リシケオトメマイマイ *Aegista collinsoni lischkeana* (Kobelt, 1879) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (絶滅危惧 IB)
76. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae dacostae* Gude, 1900
77. キュウシュウシロマイマイ *Aegista eumenes eumenes* (Westerlund, 1883)

タワラガイ科 Family DIAPHERIDAE

78. タワラガイ *Sinoenaea iwakawa* (Pilsbry, 1900)

二枚貝綱 Class BIVALVIA

イシガイ目 Order UNIONOIDA

イシガイ科 Family UNIONIDAE

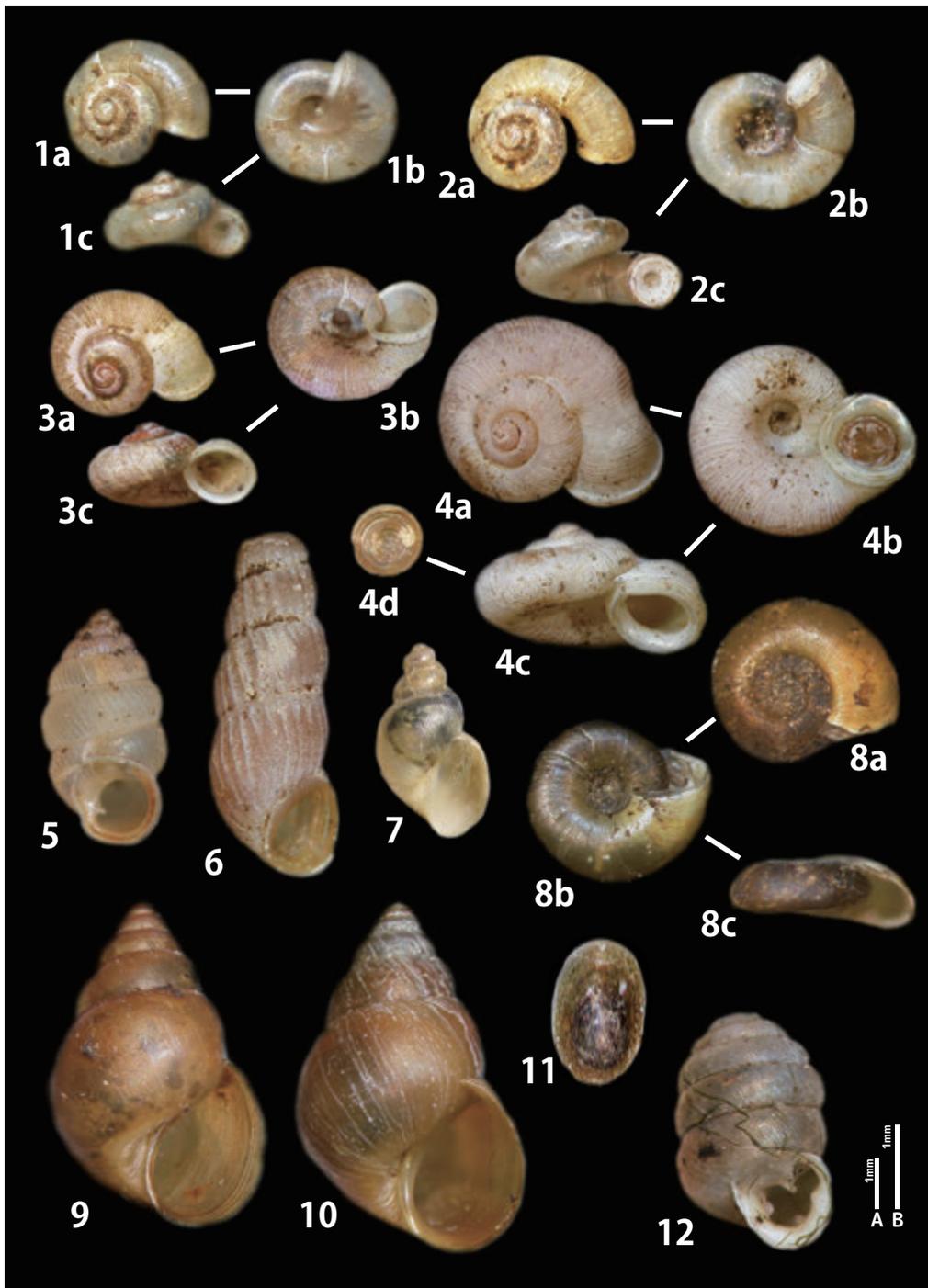
79. ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1877)
80. ニセマツカサガイ *Inversiumio yanagawaensis* (Kondo, 1982) 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (絶滅危惧 II 類)

マルスダレガイ目 Order VENEROIDA

シジミ科 Family CORBICULIDAE

81. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Müller, 1774)
82. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 環境省 (絶滅危惧 II 類)

図版I (Plate I)



1a-c. ミジンヤマタニシ; 2a-c. ハズレミジンヤマタニシ; 3a-c. ビルスプリムシオイガイ; 4a-d. オオビルスプリムシオイガイ; 5. キュウシュウゴマガイ; 6. ヤマトクビキレガイ; 7. コシダカヒメモノアラガイ; 8a-c. ヒラマキガイモドキ; 9. ヘソカドガイ; 10. オオウスイロヘソカドガイ; 11. カワコザラガイ; 12. サナギガイ. ※スケール: A(3a-c, 4a-d, 6, 7, 9, 10), B(1a-c, 2a-c, 5, 8a-c, 11, 12).

図版II (Plate II)



13. スナガイ; 14a-c. ミジンマイマイ; 15. ヒメオカモノアラガイ; 16. ナガオカモノアラガイ; 17. マルナタネガイ; 18a-c. ヒラドマルナタネガイ; 19. キセルガイモドキ; 20. シイボルトコギセル; 21. トクサオカチョウジガイ; 22. ホソオカチョウジガイ; 23. オカチョウジガイ幼貝; 24. オカチョウジガイ成貝; 25. サツマオカチョウジガイ; 26. ユウドオカチョウジガイ; 27. オオクビキレガイ; 28a-c. クルマナタネガイ; 29a-c. ヒメナタネガイ. ※スケール: A(15, 16, 21, 22, 24, 25), B(23, 26), C(13, 14a-c, 17, 18a-c, 28a-c, 29a-c), D(19, 20, 27).

図版III (Plate III)



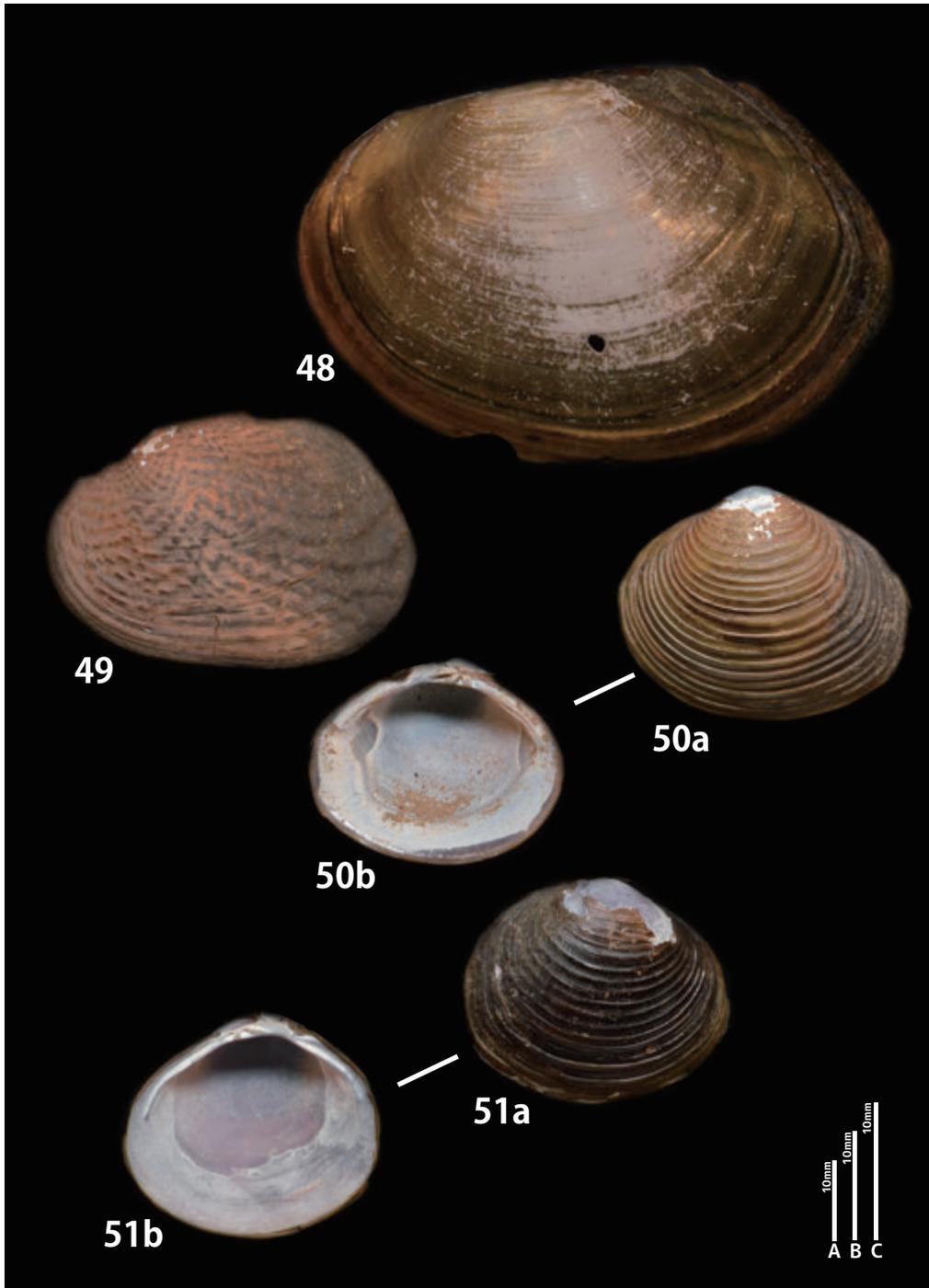
30a-c. オキノクニキビ; 31a-b. ヒメベッコウ; 32a-c. ヒメベッコウ (白色型); 33a-c. ウスイロシタラガイ;
 34a-c. マルシタラガイ; 35a-c. コシタカシタラガイ; 36a-c. ウメムラシタラガイ; 37a-b. ヒラシタラガイ;
 38a-b. オオウエキビ ※スケール: A(30a-c, 33a-c, 34a-c), B(31a-b, 32a-c, 35a-c, 36a-c, 37a-b, 38a-b).

図版IV (Plate IV)



39a-c. ナミヒメベッコウ; 40a-c. コベソマイマイ; 41a-c. タキワオオベソマイマイ; 42a-c. ツシメマイマイ; 43a-c. サンインマイマイ; 44a-c. ツクシマイマイ; 45a-c. リシケオトメマイマイ; 46a-c. ダコスタマイマイ; 47a-c. キュウシュウシロマイマイ. ※スケール: A(39), B(40a-c, 43a-c, 44a-c), C(41a-c, 45a-c, 46a-c, 47a-c), D(41a-c).

図版V (Plate V)



48. ヌマガイ; 49. ニセマツカサガイ; 50a-b. タイワンシジミ; 51a-b. マシジミ. ※スケール: A(48), B(49), C(50a-c, 51a-c).

図版VI (Plate VI)



1. モリヤギセル; 2. タキカワオオベソマイマイ; 3. ツシマケマイマイ; 4. キュウシュウシロマイマイ; 5. コベソマイマイ (略号: div=盲管, zg=両性管, ed=蛋白腺, es=輸精卵管, ov=輸卵管, vd=輸精管, fl=鞭状器, ep=陰基本体, rm=陰茎牽引筋, ps=陰茎鞘, pfs=矢囊, sd=粘液腺, va=腔, st=受精囊柄部, rs=受精囊, at=生殖腔, ap=陰茎付属肢). ※スケール: A(5), B(1-4).

図版VII (Plate VII)



1. オオピルスプリムシオイガイ; 2. ナガオカモノアラガイ; 3. シイボルトコギセル; 4. オオクビキレガイ;
5. ヤマナメクジ; 6. チャコウラナメクジ; 7. ナミヒメベッコウ; 8. コベソマイマイ; 9. タキカワオオベソ
マイマイ; 10. ツシマケマイマイ; 11. リシケオトメマイマイ; 12. キュウシュウシロマイマイ.